業務資料No. 822

ゆうかり

第18回移住者子弟技術研修生
研　修　レ　ポ　ー　ト

1990年7月

国際協力事業団

移　国
JR
90－4

ゆうかり

第18回移住者子弟技術研修生
研　修　レ　ポ　ー　ト

JICA LIBRARY
1084301[9]
21438

1990年7月

国際協力事業団
21438

ま　え　が　き

国際協力事業団では，中南米各地の移住者子弟を本邦に招致し，その子弟の属する地域社会の発展に必要な技術および知識を修得せしめることを目的に移住者子弟技術研修制度を実施している。

この制度は昭和46年度に開始され，受入れた研修生は，現在研修中の第19回生および第20回生を含め，総数440名に達している。

本誌は第18回生（研修期間：18カ月コース昭和63年４月～平成元年９月，24カ月コース昭和63年４月～平成２年３月）の研修総括報告書をまとめたものである。

研修生は幼い頃両親に連れられて移住した人，あるいは中南米の地で生まれた二世，三世の人達の中から選ばれた者であるが，父母あるいは祖父母が生まれ育った国における研修は単に技術を身につけるということだけではなく，日本の文化そのものを学ぶ良い機会ともなっている。研修生諸君は帰国後，日本の社会の中で体得した技術と知識を生かし，移住地および地域社会の発展に貢献するとともに日本および中南米諸国とのかけ橋となって活躍されることと確信するものである。

最後に，移住者子弟技術研修制度に深い理解を示され，研修生を温かくご指導くださった関係機関の皆様に改めて感謝の意を表する次第である。

1990年７月

国際協力事業団
移住事業部長

目　　次

まえがき

研修総括報告書（18カ月コース）

1. 黒田明美　（ブラジル　トレーゼ・デ・セテンブロ　）……1
2. 竹下拓朗　（　〃　サント・アトニオ・ド・タウア　）……3
3. 樗木幸次郎　（　〃　ベロ・オリゾンテ　）……4
4. 池谷美智代　（　〃　カルモ・ド・パラナイバ　）……6
5. 岸　リカ　（　〃　ジェエラーナ　）……8
6. 近藤伯子レージ　（　〃　グァタパラ　）……9
7. 高橋文子　（　〃　サン・パウロ　）……13
8. 鷲我マルコス徳裕　（　〃　モジ・ダス・クルーゼス　）……20
9. 濱野富浩　（　〃　サン・ジョアキン　）……21
10. 浦添真優美イボーネ　（　〃　カルロ・ポリス　）……23
11. 遠藤実リカルディ　（　〃　〃　）……25
12. 小崎周二ローリバル　（　〃　ボアビスタ　）……26
13. 瀬口巧アルベルト　（　〃　モジ・ダス・クルーゼス　）……27
14. 宮本正勝ロベルト　（　〃　〃　）……28
15. 佐藤マリオ康宏　（パラグアイ　アルト・パラナ　）……29
16. 島　郁　（　〃　〃　）……32
17. 堀川由紀子ベルナルダ　（　〃　イグアス　）……34
18. 松宮八重子マルガリータ　（　〃　エンカルナシオン　）……36
19. 井上シルビア雅代　（アルゼンティン　ポサダス　）……39
20. 宮脇依子　（　〃　ラ・プラタ　）……41
21. 新垣春乃　（ボリヴィア　オキナワ第1　）……44
22. 林　暢一朗　（　〃　サン・フアン　）……46
23. 木多リカルド一匡　（　〃　〃　）……49
24. 安岡まゆみエリサ　（ドミニカ共和国　サント・ドミンゴ　）……51
25. 恩智　ダニエル　（ペルー　リマ　）……54
26. 柴田光恵　（コロンビア　カリ　）……55
27. 森山智恵美　（ウルグアイ　モンテヴィデオ　）……57

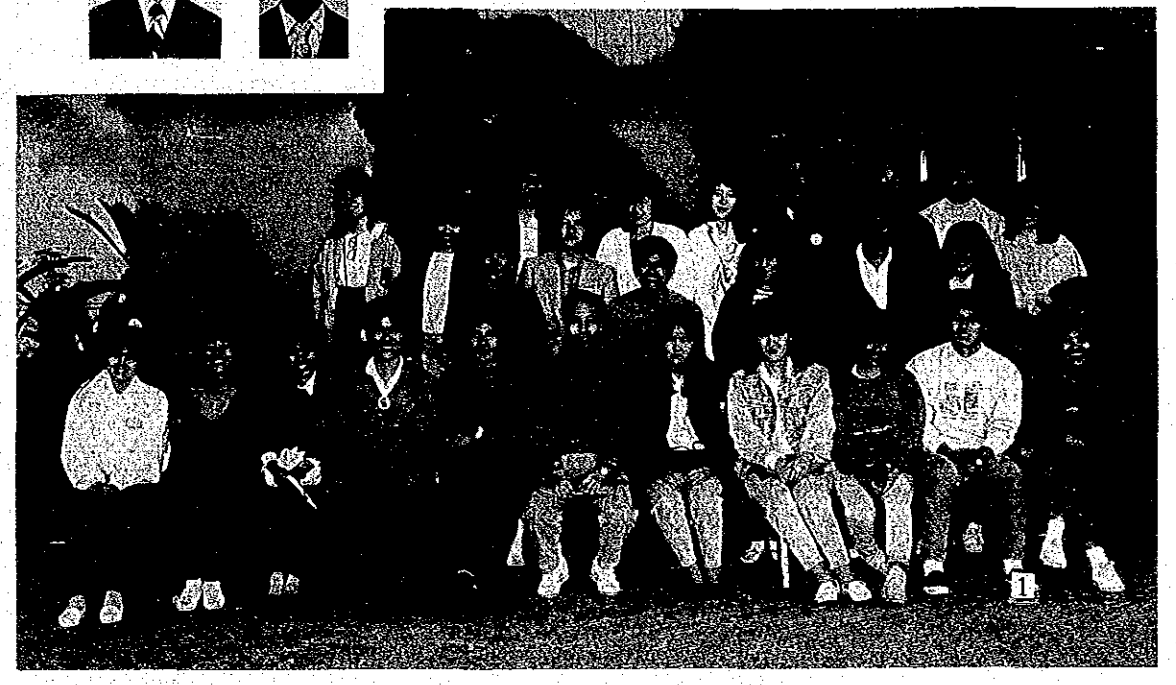
研修総括報告書（24カ月コース）

28. 不破ジュリア眞理子　（ブラジル　モジ・ダス・クルーゼス　）……61

29. 北 川 定 子　（パ ラ グ ア イ　イグアス　）…… 66
30. 槇　　みつる　（　　〃　　ペドロ・フアン・カバリェロ　）…… 68
31. 謝 花 喜美子　（ボ リ ヴ ィ ア　オキナワ第3　）…… 71

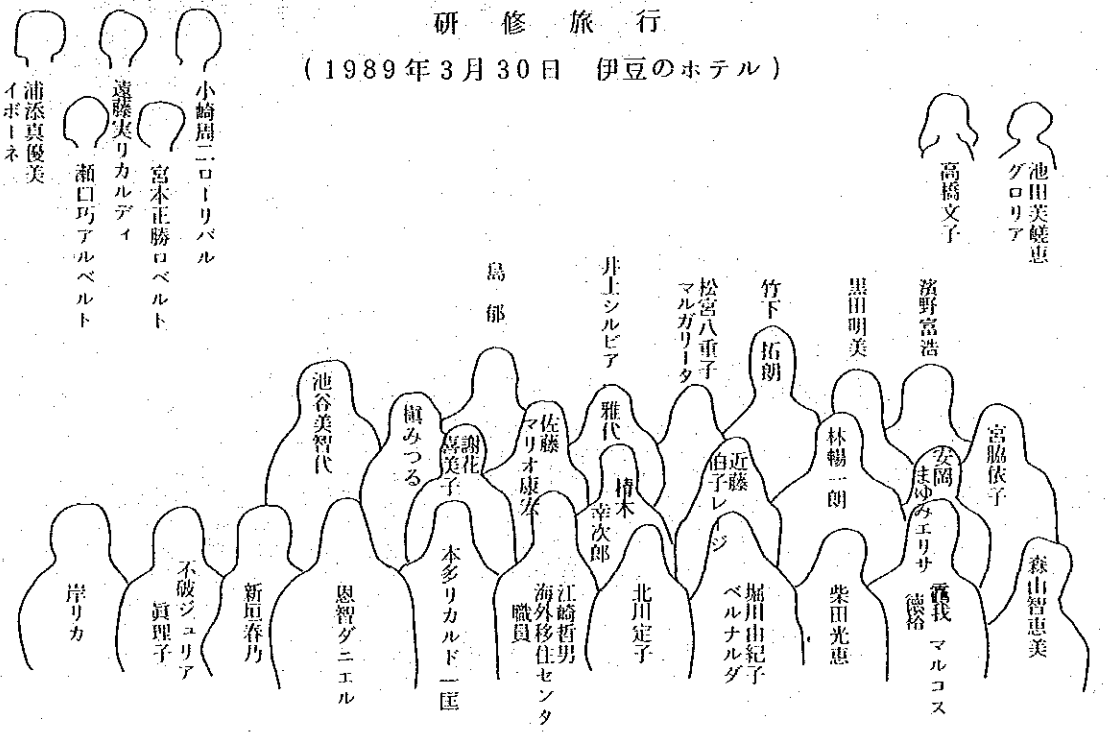
第18回子弟技術研修生住所録 …… 75
子弟技術研修生一覧表 …… 81

注：池田芙嵯恵グロリア（ウルグアイ　モンテヴィデオ）は，1989年5月6日に早期帰国し，研修総括報告書は作成していない。



研　修　旅　行

（1989年3月30日　伊豆のホテル）



研修総括報告書（１８カ月コース）

黒　田　明　美

1. 研修機関　(1) 前期 ／ (2) 後期　(財)化学及血清療法研究所
2. 研修期間　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　生化学（臨床検査）

4. 当初の研修計画

1. 血液検査とその細胞分類の習得
2. 電子機器操作及び取扱いの習得

5. 研修概要

4月1日日本へ着きました。最初の40日間は横浜で合同研修会があり，引続いて日本語，日本の歴史，お茶，生花，日本の歌，書道などの講習を受けました。

日本の歴史やお茶や生花などを習うことにより日本の表面的なものだけではなく日本人の「心」も少しは理解できたような感じがしました。

日本語の講習を受けてボキャブラリーが増え会話ができるようになったが，漢字はとても難しくて今でも不自由しています。

5月11日より本格的な研修が始まり，熊本の化学及血清療法研究所へきました。ここでは，主にワクチンや試薬をつくり研究などもしています。そのほかに臨床検査センターがあり，私はここで一年以上研修をしました。細菌検査から始まり，続いて血液，生化学，血清，ＲＩ，神経芽細胞腫，代謝異常とウィルス検査室を回りました。その他には熊本国立病院で病理検査の実習をしました。

細菌検査では，検体種類別に分離培地で選択し，その細菌が病理的なものかどうか判明するまでの方法と感受性試験などの実習をしました。

血液，生化学とＲＩ検査室ではほとんどの検査は自動分析法で行われているため，手間も，時間もかからず，検体量がすくなくても正確なデーターがでますので，コストも安くなります。
一番感動したのは，それぞれの機械が一台の大型コンピュータにすべてつながっていて一般検査の受付処理から，検査報告まで，又，精度管理も，すべてそのコンピュータを通して行っていることです。

検査の主要項目について最初に測定法の原理，及び，手技の基本操作，臨床的意義等を中心に実習し，それから自動分析装置の取り扱いや各種分析機器の動作原理及び測定法について研修をしました。

神経芽細胞腫と代謝異常検査は新生児スクリーニング検査とよばれ，陽性率は数千から数万分の一と少ないものの急を要するため，重要な検査ですが，まだ母国ではこの検査は行われていません。

血清とウイルス検査では主に抗原一抗体反応であり目で判定するのが多く，経験が大切です。

病理検査については，一般的なことをしました。その中の細胞組織学の勉強がとても難しくて完全には学べませんでした。これからもこの勉強をつづけたいと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の自分の計画では血液関係について深く覚えたいと思っていたが，血液検査の関連が他の検査部門にも関係しているのがわかり（例えば，生化学，血清，細菌，……とのつながり）臨床検査を広い視野でみることが出来，研修成果があったと思います。

7. 合同研修会について

合同研修会では日本のなれない環境から解放される気持ちです。友達の顔を見ることやなつかしい母国語が話せることが一番の楽しみでした。又，先生やＪＩＣＡの方や先輩達のアドバイスを聞き，日本人の考えが良くわかり自分達の問題点を話し合う場として非常に良いと思いました。

8. 本邦での生活状況

私は，化血研の社宅に住んでいました。社宅は４ＤＫでなんでもそろえてあり生活面では不自由は一つもありませんでした。ただ一人で住んでいましたので贅沢な感じがしました。最初は少しさびしかったが，すぐに友達が出来楽しくなりました。化血研の皆様達からはたいへん親切にしていただきとても感謝しています。

はじめは日本の食べ物が合わずこまりましたが，食べるうちに好きになり，今ではブラジルの料理よりおいしくなったと感じます。たまには友達と一緒に料理したり，おしゃべりしたり，旅行へいったり，本当に楽しい１年５ケ月をすごしました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

医学の発達はとても速いので，セミナーや学会や勉強会へ参加できればもっとよかったと思います。ざんねんながら日本国内臨床検査の学会は静岡で行われたためいけませんでした。でも熊本市ではいろいろ小さなイベントに参加できました。こんども大いに参加するよう要望します。

10. 所　感

母国に帰れば，就職は決まっているけれど臨床検査技術面ではまだまだ不安です。しかし日本で学んできた技術を十分生かし，他の者にも広く教えたいと思い，胸が一ぱいです。自分もまだ勉強して良い臨床検査技師になりたいと思います。

竹　下　拓　朗

1. 研修機関　(1) 前期　誠和設計事務所
　　(2) 後期　誠和設計事務所
2. 研修期間　昭和63年4月～平成1年9月
3. 研修職種　建築設計製図

4. 当初の研修計画

2階建以上の基礎工事について設計施工管理まで修得。

5. 研修概要

－木造及び鉄骨（S）造り，鉄筋コンクリート（RC）造りの設計製図，図面作成。

－RC造りの4階建マンション，学校又鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）造りの8階建ホテルS造り倉庫等新築現場見学。

－積算業務を少し体験しました。

ブラジルでは建築設計の勉強をしましたが，実際にやっていなかったので初めは何か手が鈍ったようにすらすらと書けませんでした。でもだんだんと図面を書いていくに従っていつのまにか図面作成が早く出来るようになりました。

建物調査も現場に行って調査し，実際いろいろな家の配置，デザインまた材料を見て実測し，そして図面の作成作業を行ないましたのでとてもためになりました。

研修当初と終り頃の図面を見くらべると建築の専門用語もだいぶ覚え，少しは図面もきれいに書けるようになりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

建築界は広くて深いものですから全部1年半でマスターするのは不可能と思います。

当初の研修計画と少し違いましたが設計に関する基本的な事はずいぶん学ぶ事が出来ました。

7. 合同研修会について

合同研修会では同じ国から来た人と話が出来ることが一つの楽しみです。

そしてストレスを解消するのでとても大切だと思います。

8. 本邦での生活状況

1年半の日々の生活を振返って見るといろいろと楽しかった事，悲しかった事がいっぱいありましたが，これから先歩む人生の道にすばらしい土台が出来たと思います。

9月22日に誠和設計事務所の創立10周年パーティで私の修了式をしていただくようになりました。

早いもので研修が終りに近づき，昨日きて今日帰るような気持ちです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私が日本へ来る前，学校で研修したほうがいいか会社で研修をしたほうがいいかわかりません

でした。

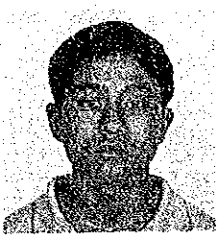
もっと日本の事を知るためにこれから先日本へ行かれる研修生のために，日本で経験のある方から１つのアドバイスとして教えてもらい，話し合いが必要だと思います。

10. 所　感

国際協力事業団そして福岡地所の御世話でブラジルにある日本の建築会社を紹介していただくようになりました。

ブラジルへ帰って２～３年ぐらい建築現場員として働き，その後建築設計の方に進んで行きたいと思います。

槽　木　　幸次郎



1. 研修機関　(1) 前期　農林水産省　十勝種畜牧場
　　(2) 後期　農林水産省　新冠種畜牧場
2. 研修期間　1988年４月～1989年９月
3. 研修職種　酪農経営

4. 当初の研修計画

乳牛の飼養管理技術……実習によって，一般管理，飼料給与技術，搾乳技術等の習得

乳牛の生理機能と理論……乳牛の発育ステージ別の生理，機能と管理技術体系を習得

飼料の生産技術……良質飼料の効率的な生産技術及び機械化管理体系技術の習得

酪農経営技術……酪農家での実習によって知識を習得

5. 研修概要

(1) 前期

① 研修内容：前期は十勝種畜牧場で，同牧場が受け入れている草地畜産技術研修員と一緒に研修を受けた。

研修は実習を主体としたもので，乳牛管理の基礎的な技術を体得した。

講義は広範で畜産全般について月平均30時間受講した。

② 成果：実習では搾乳，分娩看護，削蹄，人工授精に係る直腸検査，発育値の測定，牧草の乾草調整等と，酪農家での実習で経営に関する基礎的な技術を習得した。

また，講義では，畜産に関する基礎的な知識を知ることができたが，酪農に関した技術，基礎，本格的な知識を知ることによって，畜産経営のむずかしさを知らされた。

なお，前期研修で，大型特殊自動車運転免許，家畜人工授精師（牛）免許を取得できたことも大きな成果であった。

(2) 後期

① 研修内容：後期は新冠種畜牧場で理論を基礎にした充実した研修を受けた。講義と実習は半々で行われ，講義に基づいた実習が行われたことから，理解しやすかった。

とくに，技術面では，牛の消化機能，栄養学，繁殖生理，泌乳生理機能に合致した緻密な技術を習得できた。

育種改良については，能力検定と育種理論に基づく知識を習得できた。

② 成果：人工授精，人工妊娠に関する基礎から応用までの技術を確実に身に付けることができたほか，疾病に対する，防疫，治療，検査等，帰国後すぐに活用できる知識と技術を習得できた。

また，酪農家実習では，経営技術と，酪農家間の協力形態，日本の家庭生活文化を知ることができ，有益であった。

③ 研修旅行：研修旅行では，日本の新しい畜産技術の開発，畜産物の流通システム等巾広い分野と地域の文化知識を得ることができた。

④ 後期の研修は，講義の理論に基づいた実習，実習から得た技術に基づく応用知識習得のための研修旅行と酪農家実習，技術の確認指導等，理解しやすく，高度な内容の研修であった。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

前期では，計画通りの研修であったが，実習が主体であったため理論を習得できなかった。

後期では，前期で不足していた理論的な講義を主体とした効率的な研修であったことから，当初の計画以上の知識と技術を習得することができた。

7. 合同研修会について

日本に関する知識の全く無い私達が長期間滞在することには不安な事が多い。半年に１回でも仲間と会えることは，情報の交換，母国語での会話による精神的な安らぎの場となるほか，おたがいのはげましの場として有効であった。

8. 本邦での生活状況

最初の40日間は横浜の移住センターで日本語講習を受けた。この40日間は楽しい期間であった。

前期研修の11ヵ月間は北海道にある農林水産省十勝種畜牧場での生活であった。そこでは研修所での宿泊で，日本人研修生７人と一緒の生活でとても楽しかった。食事についても問題はなかった。

後期は同じ北海道にある農林水産省新冠種畜牧場での生活であった。ここでは外国人研修生用の最高な寮があり，何もかもそろっていて便利な生活であった。ここでの６ヵ月間中，４ヵ月間は自炊で快適な生活を送ることができた。とてもいい経験でした。研修と別に道内の色んな所へ観光でいく機会もあり，有意義な研修を受けることができた。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

自分の学びたいことをはっきりし，計画をたてること。

10. 所　感

・日本での一年半はとても短く感じた。初めて東京へ着き「日本は都会だなぁ！」と思いましたが，北海道へ来て見て「日本でもこんな広い所があるんだなぁ！」と感じた。

・研修の方は私が望んでいたよりもずっと良い研修を受けることができ感謝します。研修先の皆様が研修のために気をつかってくれたおかげだと思います。ほんとうに感謝しております。

・帰国後のことについてはあまり考えていません。帰ってみてから考えたいと思います。大学へ行きたいとも思っています。

・最後に，この機会を与えてくれました国際協力事業団の皆様へ感謝申し上げます。どうもお世話になりました。

池　谷　　美智代

1. 研修機関　(1) 前期　ユニバーサル電子計算㈱
　　(2) 後期　　〃
2. 研修期間　昭和63年4月～平成元年9月
3. 研修職種　コンピュータ（ソフトウェア開発）

4. 当初の研修計画

プログラマーレベルの勉強

・基礎知識

・設計，プログラム流れ図作成

・ＣＯＢＯＬプログラミング（事務処理関係）

5. 研修概要

５月の初め頃まではセンターで日本語講習を受け，それからはずっとユニバーサル電子計算でお世話になりました。

研修内容としては次のとおりです。

コンピュータ基礎，情報処理試験勉強

・Ｃ言語，ＣＡＳＬアセンブラ，ＦＯＲＴＲＡＮ，ＢＡＳＩＣの基礎知識

・ＣＯＢＯＬプログラミング

＊プログラム設計

＊コーディング・デバック・テスト

＊マニュアル等作成

・ＣＡＩシステム勉強

＊情報処理技術者育成用コースウェア

＊ＳＥシリーズ外部・内部設計

・ＯＡショウ見学，セミナー参加

・研修旅行（工場見学）

・第２種情報処理技術者試験

この１年半，基礎からプログラム設計，コーディング，デバック，テスト，マニュアル等作成などを勉強しました。主にはＣＯＢＯＬ言語を使って事務処理関係のプログラム作成（ジョブ管理システム）をやっていました。

会社内での勉強だけではなく，様々なコンピュータショウ，ビジネスショウ，セミナーなどにも参加し，色々な新しい情報などを得られました。

研修最後に，見学旅行をしました。東芝，ＩＢＭ，日電などの工場を見せてもらい本当に良かったです。とくに半導体関係は為になったと思います。

その他，去年の12月に日本語能力試験を受け，１級が取れました。日本へ来て言葉のほうも少し上達したようで嬉しかったです。受けて良かったです。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本に来たのは高校卒業してからすぐなので，実際コンピュータの世界とはどういうものか，又どんな内容を勉強するのか詳しく分かっていなかったので，当初はプログラムが組めるようになれば良いという考えでしたから，この１年半で覚えた内容は上回っていると思います。とにかく幅広く色々やれましたが，レベルとしてもう少し深く，技術的なことが覚えられなかったのが残念です。

7. 合同研修会について

半年に一回の合同研修会，本当に沢山の思い出ができて良かったと思います。

この期間に同期のみんなと仲良くなれ，それぞれの研修，生活，経験などの話を聞け参考になることばかりでした。

又研修が始まる前の先輩達の励まし，アドバイスなどは本当に心強かったです。

これからもずっと続けてほしいです。

そして出来ればもう少しみんなで行うイベントなどを企画してほしいと思っています。

8. 本邦での生活状況

私はこの１年半ずっと海外移住センターで生活してたので，身の回りのことなどはとくに問題はありませんでした。

センターでは色々な人達の出入りがしょっちゅうで，やっと仲良くなれたかと思うと別れと言う具合いで，少し寂しい面もありました。多くの人と知り合えてとても良かったと思っています。

言葉の面ではとくに問題はありませんでしたが，研修先では人付き合いのほうに少し抵抗があり，日本人達と一体何を話して良いか分からなく，溶け込めるまでは時間がかかりました。

週末などはどこかへ遊びにいったり，たまに旅行をしたりとても有意義に過ごしました。

色々ありましたが，この１年半センターで過ごせて本当に良かったと思っています。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私の場合だけかも知れませんが，日本にくる前具体的に研修はどういう感じでやっているか，お世話になる研修先，生活状況などを説明が不十分でしたので，来た当時本当に何も分からなくてすごく不安になりました。これは自分自身で調べなかったのも悪かったかもしれませんが，ＪＩＣＡ研修生としては私が住んでいる町では初めてなので，聞く人がいなくて困りました。今後来る人達にもインフォーメーションはなるべく早く，はっきりとお願いします。

10. 所　　感

帰国してからでないと分かりませんが，出来ればすぐソフトウェア関係の会社にはいって，働きながら勉強のほうもしていきたいと思っています。

この日本での１年半の勉強が国でどのくらい通用するかは分かりませんが，今まで覚えたことを生かし，頑張りたいと思っています。

日本に研修で来れことをとても感謝しています。

この１年半，本当にお世話になりました。

どうも有り難うございました。

岸　　リ　カ

1. 研修機関　(1) 前期　長野県飯山市農業協同組合
　　(2) 後期　長野県飯山市農業協同組合
2. 研修期間　1988年４月～１９８９年9 月
3. 研修職種　組合（販売）経理

4. 当初の研修計画

日本へ来る前は経済か，経理の研修をやりたかったです。

それもお父さんの故郷（長野県）で勉強したかったです。

5. 研修概要

日本へ来てからもうそろそろ一年半になります。本当にはやいもんですね。私は，飯山市農協で去年の５月から販売経理の研修をさせていただいています。こちらでは長い間お世話になり，いろんな事が勉強できて，とてもうれしく思います。研修も事務の仕事だけでなく，いろいろな現場に行っていろいろ何かと親切にしてもらったので何ともいえないです。日本へＪＩＡＣの研修生として来れたのも本当に夢のようです。もうその夢もじき終わりそうなのでとてもさみしいです。長野県で研修ができると聞いた時はただ雪の心配がありました。けれどもおかげさまで雪のりょうもいつもよりすくなかったそうです。研修でもいろんな事が勉強できてとても感謝して

います。

農畜産課では食糧管理制度の勉強，低温倉庫の在庫調査，水田の面積計算，収量調査，豚コレラの予防注射の手伝い，乳代の計算，牛の出荷，牧場の放牧を手伝わせてもらいました。そのほかに経理課でパソコンをやり，きのこ（えのき，しめじ，ほんしめじなど）の精算もやり，あとは現場に見学に行ったりしました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本で研修してみてやっぱり思っていたよりうまくできてとてもうれしく思っています。こちらに来る前はただ日本語があまりできなかったので心配していましたが，何とか頑張ってうまくできました。

7. 合同研修会について

合同研修会はとてもひつようと思います。やっぱりみんなで会ったり，お話をしたり，それから研修の事も友達と話したり，そうだんしたり，それからＪＩＡＣのレポートもまとめて，６ヶ月間でやった事をみんなに聞かせるのがとても楽しいです。

8. 本邦での生活状況

私は６ヶ月間は親戚の家でお世話になりました。去年の10月から一人でアパートをかりて住んでいました。やっぱりいつまでも親戚の家にいるとあまえちゃうから自分で少しぐらいくろうをしないといけないなと思って，20分ぐらいはなれている所（飯山市）へ行きました。それもいろいろと大変でしたが，自分のためになったと思っています。本当に日本へいい時に来れてとてもよかったです。それから昭和に来て平成に帰ることができてとてもいい記念になったと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

◇あまりがらくた買わないように。（帰る時がとても大変です。）

◇できたらお金をためて旅行をする事。

◇体に気をつける事。

◇漢字を勉強する事。

10. 所　感

ブラジルに帰ったら家で５ヶ月間くらいお父さんとお母さんの手伝いをします。来年の３月からまた大学へ行きます。あと一年大学へ行けば卒業ができます。それから，いい所に勤めたいです。

仕事はやっぱり日本でやった事といっしょだと思います。たとえば経理のほうか経済です。銀行に入るのが一番の夢です。またあちらの方に帰ったらいっしょうけんめい頑張ります。長い間お世話になってまことにありがとうございました。またいつか会える日を楽しみにしています。ではみなさんもお元気でね。

近藤伯子レージ

1、研修機関　(1) 前期　北里大学病院
　　(2) 後期　　〃
2. 研修期間　昭和63年4月～平成元年9月
3. 研修職種　臨床検査技術

4. 当初の研修計画

大学を卒業後，実際いろいろな所で実習をしましたが，大変重要な仕事な上，あまり大学で習った検査とは変わりませんでした。そのため，日本で新型機械による臨床検査を研修し，検査に必要とする検体量も少なく，正確に，短時間で結果報告を出せる方法を学ぶ必要性を感じ，留学を決心しました。

5. 研修概要

横浜市，国際協力事業団「海外移住センター」で40日間の日本語研修（日本語，日本事情（社会，歴史，マナー），日本の歌，書道，生花，お茶，体育など）をしました。

5月12日から相模原市，北里大学病院で臨床検査全般（検体及び生理検査）の研修を始めました。

スタートは「輸血センター」からでした。5月12日～7月31日。初めは専門用語があまりわからなく，英語の単語をまぜながら技師さんに教えていただきました。

8月1日～9月30日―「緊急検査室」。化学，薬物測定，血液ガスなどすべての検査が自動分析装置で行われ，又，それぞれの装置の原理，精度管理法等を学びました。

10月1日～31日―　「病棟一般検査室」。尿の定性・定量，沈渣，髄液，便，胃液，精液などの検査実習をしました。

11月1日～30日―「染色体検査室」。末梢血と羊水の染色体分析を学び，実際に自分の血液も分析しました。

12月1日～28日―「免疫血清検査室」。細胞性免疫，補体価の測定，免疫電気泳動法など患者さんの検査をしました。

お正月を迎え，年号も昭和から平成に変わり，とても意味ある日本の一ページの歴史をいっしょに過ごしました。とても複雑な気持でした。

1月4日～31日―「ウイルス検査室」。補体結合反応テスト，ＨＢ抗原抗体検査，ＨＳＶ，ＨＩＶ，ＥＢＶなどさまざまなウイルスの検査の実習をしました。

2月1日～3月31日―「血液検査室」。血算・血液像は自動分析装置で行われ，白血病などの症例のも研修しました。

4月1日～6日―9月から6ヶ月目の3回目の合同研修会。とうとう先輩と呼ばれる日が来てしまいました。

4月7日～6月30日―「細菌検査室」。好気性，嫌気性菌，結核菌，真菌の検査方法を学び，患者さんの検体もやらせていただきました。一番長い期間でしたが，わがままをいって色々な検査をさせていただきました。

これで検体検査の研修は終わりました。月（month)単位でまわりました。

7月からは生理検査研修が始まりました。週（week）単位です。2週間は「循環機能検査室」で心電図，心音図，脈波など患者さんのを取らせていただきました。

2週間―「呼吸機能検査室」で呼吸機能一般，呼吸抵抗など学生さんといっしょに自分のデーターもとってみました。

8月の2週間は夏休みをいただきました。

1週間―「循環超音波検査室」で心臓超音波断層像，Mモード心エコー図など。自分のもとっていただき，右心に逆流があるのを知り，すこしショックでした。

1週間―「腹部超音波検査室」で乳腺，腹部領域，産婦人科領域の実施見学をしました。

9月の1週間―「神経・筋機能検査」末梢神経伝導速度測定を体験，針筋電図など見学しました。

2週間―「脳波検査室」成人脳波，小児脳波を取ったり，被検者になり検査を体験しました。

簡単に研修内容を述べました。

臨床検査全般，検体検査8部屋と生理検査6部屋研修しました。本当に広く浅くでしたが，みんなとお友達になれました。専門用語がお部屋が変わるたびにむずかしくなり，やっとなれた頃には，また次のお部屋へと移るので，とても苦労しました。

月日が過ぎるにつれて，廊下で会うお友達に声をかけていただき，いつも「レージ，元気？今どこのお部屋にいるの？」などとても皆さん親切にして下さいました。

研修の方も各お部屋で行っている検査をすべて指導していただき，見学，実習させていただきました。

患者さんの検査を自分が責任をもって行い，検査の結果報告を出すまでは緊張感でいっぱいですが，充実感も感じます。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

大学時代細菌検査に関心をもちましたが，日本での研修は臨床検査全般を研修することになり，細菌検査は3ヶ月間実習しました。一番長い期間でした。

生理検査は国では行えませんが，3ヶ月間1～2週間単位で実習し，患者さんと直接接触し，検査中お友達にもなれました。

全部で14のお部屋の方々と接触し，今思うと，やっぱり検査部全部を回りとてもよかったと思っています。もう少し長い期間だったらなぁーと思います。

7. 合同研修会について

横浜市，国際協力事業団，海外移住センターで過ごす40日間の日本語研修は一年半の日本での生

活への大切な第一歩でした。もちろん，日本語，日本事情（社会，歴史，マナー），日本の歌，書道，生花，お茶，体育などの研修もですが，同期同士親しみを深め合い，センターの方々，先生方，先輩達との交流がとても大切でした。

六ヶ月おきに同期と会うのを楽しみに，早く最初の半年が過ぎないかとも思いました。初めて一人になってホームシックになったり，ストレスがたまり，とても悲しい時もありました。

合同研修会は研修生同士おたがい励ます場であり，又，目標を新たに「もう6ヶ月ガンバロウネ」の場と思います。

8. 本邦での生活状況

相模原市麻溝台に住んでいる伯父の家に住むようになっていたことは私は日本に来て初めて知りました。

40日間センターで皆と過ごした頃を思い出すと，とても悲しくなったこともありました。

5月11日は伯母の命日でした。お墓参りしてから行きました。伯父の家にお世話になりながら北里大学病院へ通いました。

徒歩で約20分，自転車で7分ととても近い所から通いました。

病院でのいろいろな行事に参加し，個人的にも，いろいろとさそっていただきました。ボーリング大会，キャンプ，忘年会，ミニ・トライ・アスロン，皇居マラソン大会，スキーなどとても楽しく一年半を過ごしました。

ですから，たくさんのお友達とのお別れはとても悲しく，つらく感じました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日常会話は少なくても出きる研修生の方がいいと思います。

専門用語は少し勉強して来た方がいいと思います。

研修旅行はとても楽しく同期といろいろな場所へ行けるチャンス本当にありがとうございました。

10. 所　　感

ブラジルで生まれ育った私にとって日本語が第一言語でした。父母の故郷である日本には小さな時から憧れていました。

大学を卒業後，いろいろな所で実習し，国際協力事業団の移住者子弟研修生として選ばれて日本で，北里大学病院で，研修できたことを心より感謝しております。本当にどうもありがとうございました。

日本の生活にやっとなれ始めたと思うようになった今，帰国することはとてもつらく，そして悲しく思います。

こちらでの日常生活と同じ日本人であるブラジルに移住した日本人の日常生活とは異なり，いろいろ悩みました。ですからお買物の時には，顔は日本人なので，とてもこまりました。

親類の家へ遊びに行き，おばあちゃんにも会いました。

又，病院の皆さんはとても親切にして下さり，たくさんのお友達が出きました。

帰国後は，できればもう一度大学にもどり，「輸血検査」について勉強をしたいと思います。

北里大学病院のような大きな総合病院で働き，経験をたくさんつみ，研究もしながら，日系社会の人達のために貢献したいと思います。

国際協力事業団の皆様いろいろとお世話になり，どうもありがとうございました。

又，北里大学病院の皆様，その他いろいろな方々にお世話になりどうもありがどうございました。

国際協力事業団の皆様が下さったこのチャンスを無駄にしないで，日本，ブラジルのカケハシになり，2ヶ国のために貢献したいと思います。

高　橋　文　子

1. 研修機関　(1) 前期　宮崎県衛生研究所
　　(2) 後期　岩手医科大学細菌学講座
　　（ウイルス研究室）
2. 研修期間　昭和63年4月1日～平成元年9月29日
3. 研修職種　保健衛生（微生物学，病院内感染症を含む）

4. 当初の研修計画

テーマ：病院内感染症予防対策

研修内容：

微生物学

- 微生物学総論
- 感染
- 感染症の診断法
- 感染症の予防とコントロール：滅菌，消毒，化学療法と免疫療法
- 細菌学各論
- ウイルス学各論
- 真菌学各論

病院内感染防止対策

- 日和見感染の問題
- 院内感染対策委員会の指導的役割
- 院内感染予防のためのマニュアル作成（実状に応じて）
- 院内汚染の調査

滅菌および消毒

細菌臨床分離株の傾向と薬剤感受性

感染患者および病原体保有者の隔離の必要性の判断

Ｂ型肝炎の防止対策

呼吸器感染と院内感染

手術部における感染防止対策

泌尿器科における尿路感染対策

皮膚科の感染症

産婦人科の院内感染

小児科病棟における院内感染ことにＮＩＣＵについて

ＡＩＤＳとその対策

5. 研修概要

前期：微生物学

教科書に基づいて微生物学の講座

漢字の読み方，意味，全体的な意味

微生物の入門に始まり，基礎知識全章

培地学（バクテリアに関するもの）

培地の選択（応用も含む）

培地の用意（作り方）

腸内細菌同定（主に食中毒に関するもの）

増菌，染色，分離，生化学テスト，血清型別

腸内細菌キット使用

（サルモネラ，赤痢，病原性大腸菌，ビブリオ，コレラ，プロテウス，エルシニア，カンピロバクター）

滅菌，消毒方法

乾熱滅菌法，煮沸消毒法，高圧蒸気滅菌法，濾過除菌，火炎滅菌法，紫外線消毒法

消毒剤の化学的分類（特徴）と用途別分類

消毒剤の効果に影響を与える因子

微生物の種類，菌量

有機物の存在

消毒対象物の性状

薬剤の種類，濃度，液量

作用時間，温度

ＰＨ

消毒剤の使用指針

研究所内の仕事

水田性皮膚炎（特に貝中のセルカリア保有調査）

日本脳炎ＨＩテストの応用

蛋白質の定量・Lowry 法

百日咳の血清抗体価測定（ＥＬＩＳＡ，菌凝集反応）

大腸菌の薬剤感受性検査（最小発育阻子濃度ＭＩＣ測定法）

インフルエンザ　ウイルスの発育鶏卵による分類（接種，羊水の採取）

微生物実習参加（腸内細菌，食中毒検査）

英文による腸内細菌科の勉強会

海水のビブリオ調査

テーマをもっての実験

消毒約の検定法（石炭酸係数測定法）

エタノールの殺菌効果

学　会

第14回九州衛生公害技術協会議会出席

第58回日本感染症学会西日本地方会総会出席

基礎的な知識がなく，また，専門用語が理解できないため，微生物学の講座から始まった。読めない言葉，意味が分からないもの，そして私の専門分野ではない微生物学の知識を日本語で少しずつ得ることができ，一年を過ぎると専門書を参考に読めるようになり，同時に研究所内のお手伝いに必要な実際的な技術を学習し，実験や試験の観察をしながら，身につけることができた。研究所内の仕事内容では，自分の目的に直接関係のないものもあったが，一緒に進めることによって文献などで学べない細かい技術を得ることができ，その後の自分の実験の進め方について役立てることができた。

学会への出席は，内容には語学と知識の問題で学べることは少なかったが，日本の先端的な研究を全体的に知ることができ，帰国後の課題に役立つことと思われる。

最終的には，２つの実験を衛生研究所の所長をはじめ，研究員一同，職員一同により行うことができた。薬剤師の立場として，病院内感染症に対する薬剤部の対応は，消毒約の適正な供給及び指導が大きな役割となるので，研究所よりテーマが与えられ，必要な知識を得た後行うことができた。５ヶ月で両方の実験を終えることができた。日本語でまとめることも一人ではできず研究員の手を借り無事研修期間中に終えることができた。

成果：微生物の基礎知識を得て細菌（バクテリア）の扱い方を学ぶことができた。

文献を読み新しい研究に充分応用できると思われる。

<u>後期</u>：<u>感染防止の知識と技術</u>（実際的に）

組織培養の基礎知識

各細胞の観察，細胞培養の継代，細胞数の算定

血清学的診断法（ウイルス感染症によるもの）

中和試験

ウイルス分離同定法（組織培養によるウイルス分離同定法）

ウイルス増殖の確認：ウイルス感染による細胞変性効果の観察（ＣＰＥ）

血球吸着現象－Hemadsorption

分離ウイルスの同定：核酸型の決定

エーテルあるいはクロロホルム感受性試験

酸感受性試験

最終的にウイルス種を決定後ウイルスに対する免疫血清を用い血清学的に型を決定

Respiratory Syncytial virus の感染価測定

院内感染防止対策

看護婦による「手洗い後のタオルの汚染」についての実験に参加（バクテリアによる汚染）

実験実行（看護婦詰所にて）

分離された菌同定（中央臨床検査部―細菌検査室）

臨床材料より病原菌の分離同定

選択培地より菌群別を行い，確認培地より菌種決定（グラム染色，溶血性のテスト）

手洗い実験より分離された菌株の薬剤感受性試験（ディスク法）

予備試験―使用菌一夜培養後の菌計算

ブドウ糖非発酵菌７株とブドウ球菌６株の25薬剤に対しての感受性試験を行った

手洗い実験から分離された菌株の最小発育阻止濃度測定

日本化学療法学会の改定案（1974年）に基づいて抗菌剤５種類を選び寒天平板希釈法を用いた

(Piperacillin, Sulbenicillic, Gentamicin, Minocycline, Cefuroxime, Erythromycin)

走査電子顕微鏡の操作及び写真撮影

試料の作り方：組織の切り出し

固定，脱水，包埋，薄切り，染色，鏡検，写真処理

使われた試料：検体を採取した綿棒

ウイルス感染価測定（Infectivity titer）

ヘルペス　ウイルスの組織培養による測定（96穴のmicroplateに接種後，Reed-Muench法

によりTCID$_{50}$の算定)

岩手医科大学院内感染対策委員会出席

診療部門，中央臨床検査部門，給食部門，事務部門，その他により選ばれた委員によって組織され，院内感染防止のための調査，研究，対策などが発表された

研究発表：消毒薬について

調査発表：院内感染症発生届出数（各科別，各病原菌別）

注射針刺傷状況

学　会

第63回日本感染症学会総会学術講演出席

第７回東八幡平シンポジウム（院内感染とその対策を考える）出席

基礎的な知識（主にウイルス）がないため，ウイルスと組織培養の基礎知識と技術を得ることが必要となり，応用した実験を行う時間がなかった。研究室で行われているルーチンの検査により，必要とする技術を得ることができた。前期で学んだ専門用語と英文による勉強会が書物よりの学習に役立った。大学の図書館では多くの書物と文献が集められているので独学に励むことができた。

目的のテーマの範囲があまりにも広く知識が少ないため望んでいた研修には及ばなかったが，応用への必要な基礎知識を多少学ぶことができた。

第７回八幡平シンポジウム（院内感染を考える）の席では，現在世界の病院内で緊急の課題となっている院内感染の問題が高度なレベルで取り上げられ，日本国内の各領域からの院内感染とその防止対策をめぐる発表があり，それぞれにさかんな討論が重ねられた。私の最大の目的に適したこのシンポジウムはすぐれた内容の全発表が勉強になりまた大きな刺激となった。以前に，もしこのようなシンポジウムに出席していても半分も理解できなかったと思われる。18か月間の研修が，この高度な発表に関心をもって耳をかたむける姿勢を備えてくれたのだと思われ，感謝する。

成果：ウイルスと組織培養の扱い方を学ぶことができた。

将来院内感染の対策への応用テーマ（内容を含まない課題）を知り，進め方を考えていく知識が与えられたと思われる。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画としては前期の一年で微生物の基礎を学び，後期の半年で病院内における実際的な病院内感染症の発生要因とその対策を学ぶことを望んでいた。実際に研究室で自由に行動できるのに時間がかかってしまったのと同時に知識不足と日本の社会への柔軟性が問題となり，スタートが遅れてしまい最終的には時間不足になった。前期で学ぶべきだった細菌学（バクテリア以外の微生物）が終了できなかった。後期の研究室でも前期と同じ問題点のため望ましい研修が行われなかった。後期では院内での学習を望んでいたが，研究室は細菌学の基礎講座のため院内

での実際的な学習はほとんど行われなかった。目的範囲があまりにも広く浅いものだったため目的を達成することが不可能になったと思われる。特に大学の研究室では基礎を学んだ者が狭くて深い目的をもって実験を進めているので，この様な目的には対応が難しいと思われた。

応用的なものは学ぶことができなかったが，応用に必要な基礎知識が備えられ，研究員としての大事な心得ができ，帰国後の応用も不可能ではないと思われる。細かい内容は違ったとしても最終的な目的は充分に身につける事ができたと思われる。

7. 合同研修会について

滞在期間に行われる合同研修会は，よい研修を進めるのにとても大事と思われた。

1回目の合同研修会では先輩よりの貴重な報告とアドバイスが研修の心構えを備えてくれるものだった。

2回目の合同研修会では一番大変な最初の6か月間の研修と生活状況の報告の場が与えられ励まし合うことができた。先輩よりのアドバイスはどんなささいな助言でも聞き逃せないものと思われた。

3回目の合同研修会では後輩を迎え，前期の報告をすると同時に，未だ不安で一杯の後輩に実際的なアドバイスをするべきだと思われる。先輩より伝えられたこと，または自分の経験を具体的に話す場だと思われる。交流を深め，励まし，助け合う環境づくりの時間と思われる。

4回目の合同研修会はこの時点では行われていないが，研修の成果はもちろんですが，各研修生の分野が違うので研修内容の具体的な報告は質問に応じての報告で充分だと思われます。研修先での状況と生活状況を主に報告されるのが望ましいと思われる。

また同期の研修員は40日間同じ生活を助け合いながら，同じ悩みを持つものとして，滞在期間中の唯一の家族となっているものと思われる。精神的にゆとりのない生活をしている研修員に必要な時間であり，続く研修への力を備える場だと思われる。また，ＪＩＣＡ本部には毎月の報告書に書かれなかった状況が具体的に細かく話せる機会だと思われる。

8. 本邦での生活状況

日本での生活に慣れるまでには6か月という期間が必要であった。最初の海外移住センターでの生活はカルチャーショックを防いだと思われる。40日間で日常の生活に対応できるようになった。（買い物，一般事情，交通機関の使い方）日本語がある程度話せても，少し時間がかかるようだ。

前期（宮崎市），後期（盛岡市）とも一人暮らしだった。治安の悪い国で育っているものには安全と理屈で分かっていてもなかなか心理的に受け入れることができない。（1階で夜窓を開けること，研修先，バス停，駅からの暗い道，訪問者の様子が分からない場合）個人差があると思われますが，生活に不安を与え，研修先より帰宅しても精神的な休養が得られないと思われる。前期では最初の2か月間，後期では5か月間熟睡が不可能だった。

各研修先に慣れるまでには最低4か月の期間が必要だった。日本の職場での常識が分からない

ため，どのように対応していくべきかの判断がとても難しかった。理屈でわかっていても自分の常識とあまりにも違うことは受け入れ難くストレスの原因となるのだと思われた。（勉学にきているがどのような下働きまですべきか？　帰宅時間？　意見の提案をどこまでしてよいか？）

前期と後期の生活，研修先があまりにも差があった。安定した生活が得られなかったため，研修の成果に影響をもたらしたと思われる。研修先でもアパートでも精神的な安らぎが得られなかった。軽いうつ病の初期症状も現れていたと思われる。食事と運動に気を配り，月に一度は国から来ている友達に会うようにしたが，後期では県内に国の友達がいなかったため大変困難であった。後期では難聴になってしまった。原因はストレスと精神的な疲れと十分に考えられることだった。

前期と後期の生活と研修では，生活の安定が研修先でのよい学びにつながる事を身に感じる事だった。

9. 今後の子弟研修生制度に対する提言及び要望事項

毎月提出している報告書については，国の方に送られるため，もう少し考えて頂ければ自由に，特に生活状況について，もっと具体的に報告することができると思われる。生活状況のスペースは研修生達にとっては何を書いてよいか分からない場合が多いようで，これを幾つかの質問にすると研修員の生活状態なども分かってもらえるのではないかと思われる。報告もしやすくなると思う。

今後研修に来る方々の面接では日本語の話し方（特に発音）は評価する必要はないと思われ，主に研修目的に重点を置くことが大切と思われます。研修先の受け入れ前に，研修先からの要望等も聞き，十分に適しているか検討する必要があると思われます。また，その要望を研修員が自覚する必要があると思われる。

研修先は，やはり知人や親類が近くにいる土地が望ましいと思われました。

10. 所　感

日系人の医療従事者である私には，日本国で予防衛生の知識を習得できたことは今後の国際医療協力という大きな世界的な課題の中でブラジル国における，特に日系社会における日本との友好のかけ橋として意義深いものが備えられたと思われる。

我々日系人が国際社会の中で活動していくためには国々のスタッフとの間でその考え方の共通点を十分理解し，重視して行くと共に，相互の間の存在そる相違点を尊重し合っていくことが大切な姿勢と思われる。今回の研修期間にはこの様な成果も得られたと思われ，今後のブラジル国における国際医療への貢献を志したいと思う。

人材育成のために実施されているこの研修制度は個人的に希望して来日しているものが多い為，帰国後の指導的研究を続行することが難しいと思われる。医療問題は中長期的に効果を期待されるものであり，指導的スタッフの基盤において可能になるかと思われる。

日本国で学習した技術と国際医療協力の姿勢が果たしてどのように役立てられるかまったく未

知である。職業，経済不安定な国から来ている者には帰国後の貢献は場が与えられるかによって効果の拡散が期待できるのだと思われる。

両国の社会で生活経験が与えられた私達は専門分野だけではなく国における日系社会との相互理解への使命が与えられていると思う。両社会に柔軟生を持つこの特権を生かしていくべきだと思われる。

霞我マルコス徳裕

1. 研修機関　(1) 前期　有限会社　高木ナーセリー
　　(2) 後期　　〃
2. 研修期間　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　ラン栽培

4. 当初の研修計画

私は日本に来る前にはランについて友達の所で3ヶ月間実習をしました。それで日本に来るのが決まりましたので出来るだけ全部学びたい気持ちで来ました。

5. 研修概要

一年半を振り返って見ると私はいろんな事をやったと思います。

まず初めの三ヶ月間は培養室でフラスコ洗いとか，培地を作ったり，または無菌室でランの種まきとか苗の定植をしました。

外の仕事は最初にユリ畑の草取りや消毒をやったり，球根をほりおこしました。

ランの方では植え替えをしたり，フラスコから出した苗を水苔でまいたり，水，消毒と液肥をやったり，または出荷もやりました。ハウスのビニールも取り替えました。

別の仕事としては社長の家のまわりの草取りをやったり，大工さんの手伝いをしたり，アリアム（花）の球根をほりました。そしてランの輸出と輸入についていろいろと覚えました。

また月に一回，日曜日にはほかの研修生と交代でハウスの管理をしていました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は最初の時は仕事の時間が長く疲れが出まして，どうして日本人はこれだけ仕事をやるのかと思いましたけれど時間が経つとなれました。

またはランの研修をやりに来たのにどうしてほかの仕事をやらなくてはいけないのかと思いました。でもこれが一つの研修と思って頑張って来ました。

7. 合同研修会について

合同研修会については今の状態でよろしいと思います。

8. 本邦での生活状況

生活は最初の時は人間関係がなれるまで苦労しました。それ以外こまる事は無かったです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私はただ春と秋の合同研修会を続けていただきたいと思いました。どうしてかと言うと，6ヶ月間の間で非常にストレスがたまるので合同研修会があるとストレスもなくなり，元気で研修先にもどることができるからです。

10. 所　感

ブラジルへ帰ってからすぐにランの栽培は出来ないので5年から10年先を見てやりたいと思っています。そして目的はアメリカやヨーロッパに輸出をすることです。

浜　野　富　浩

1. 研修機関　(1) 前期　青森県りんご試験場
　(2) 後期　小林義正様（りんご栽培農場，多収穫選定技術者）
2. 研修期間　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　果樹（りんご栽培）

4. 当初の研修計画

林檎栽培法の技術。

5. 研修概要

最初の四十日間は，神奈川県横浜市の国際協力事業団海外移住センターで，日本語講習を受けました。日本語講習の内容としては，日本語，日本の歴史と地理・書道・体育・歌・お茶・生花などの講義がありました。

五月十二日からは，青森県営農大学園生寮に泊まりながら，そこから歩いて七分ぐらいの所にある青森県りんご試験場で，研修を受け始めました。そこでは，次のようなことを学びました。

先ず，五月中旬のりんご開花中だったので，そ作業の手順研修から始めました。

花の採取から受粉用花粉までの実際，花粉の和合性，メンボー類主体と授粉器に関する人工授粉作業とマメコバチ利用による授粉の効果と結果

手と薬剤散布による摘花と摘果の実際。または，落下防止剤

早く成らせるための枝引きと成ったえだを支えるための支柱入れ

着色手入れ方法と時期に関する有袋と無袋の葉とり，反射シート，つるまわし等の技術利用法の良否差

夏季剪定と冬剪定の目標

ＣＬＳＶ普通系と潜在系，ＳＰＶ，ＳＧＶ等に関して起こる害，又は，そのウイルス検定植物と利用法

腐らん病，黒星病，ハダニ類，ハマキムシ類，斑点落葉病，キンモンホソガ，アブラムシ類など

白紋葉と紫紋葉病，銀葉病，しんかび病，ウイルス病などの害を受けている園地調査

Ｍ．９，Ｍ．26，Ｍ．27，マルバ，実生台木などの特質とりんごの品種別に関する育成

担当者と一緒に近くの特殊なりんご園地を数回も見学しました。それに，県内の試験場と農家見学もしました。

平成元年四月七日から九月二十日まで，小林義正さんのお宅に泊まりながら，家族同様の生活で，下記の通りの作業などを研修実習として行いました。

冬剪定作業の続きで，切られた枝を集めて燃やす。

フラン病対策・草取り，苗木作りと接ぎ木，人工授粉，摘花，摘果，わい化園の除草剤散布，徒長枝管理，支柱入れ，着色手入れなどの作業。その他，主に，いろんな研究で良い成果を上げているりんご園地見学もしました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本語の読み書きが下手だったので，数回も悩んだ時がありました。しかし，りんご栽培に必要な状況や基本的な技術については，少しでも本を読んだり，りんご園地調査や見学，作業実習などをしながら研修計画より研修内容の方が非常に上回ったと思っています。だけど，これからブラジルの状況などにあわせながら僕の夢を実現しなければならないので，完全に満足した気持ちではありません。

7. 合同研修について

広い南米の各国から日本に来て，全国各地の研修機関で夢にも見ていなかったそれぞれの大発見，珍しい物，感じた事，人間関係，研修先のこと，学んだこと，などについて，皆と顔を合わせながら話す機会で，いつも楽しみにしている合同研修会だと思います。その他，それぞれの問題になっている件もゆっくりと分かりやすく話し合いながら解決できるので，合同研修会は必要であり，最も勉強を深める機会だと，ぼくは思います。

8. 本邦での生活状況

前期，僕がお世話になっていた寮では，土曜日の晩と日曜日は無食事だったので，カップヌードルを味わってみました。けれど，物足りないなと感じたので，僕の大好きな寿司と刺身とか野菜を一番賑やかなスーパーから買って来て高級な自炊を体験した事もありました。それに，毎日，寮のおばさんから朝食と夕食の他，昼食として作ってもらっていた赤・黄・緑色入りのおいしいお弁当も楽しみでした。

最初の頃は，あれもこれも珍しくて，町へ出て店が閉まらなければ寮に帰らないという日曜日を数回も続けました。その他，十八か月間に亘って，十和田湖観光，岩木山登山，八甲田山登山，

スキーとスケート滑り，なども研修先の先生方と一緒に体験させてもらいました。

9. 今後の子弟技術研修に対する提言及び要望事項

日本語をできるだけ勉強してくること。少なくとも研修目的の専門語の読み書きは，完全にできた方が良い。

自分の考え方や気持ち，又は，目的や研修計画をはっきりと話せるように。

最初の頃には，研修期間が長いと感じましたけど，帰国の頃になって焦る事が起こらないように，今できることであれば後に残さない心構えが必要です。

10. 所　感

この十八ヶ月間を振り返ってみると，あっと言う間に過ぎていたときづきました。

日本で勉強する夢を十八ヶ月間掛けて実現した事は確かです。だからといって，その間に学んだ技術をブラジルで使えると言う訳にはならないので，これからがほんとうの勉強になると思いながら帰国します。

先ず，ブラジルの気候や商業の状況にあわせながら日本で学んだ技術を無駄にしないようにと考えています。それに，ブラジルの状況により一段くらい上回ったりんご栽培を狙って頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが，ぼくの研修がうまく行えるように，協力して下さった国際協力事業団の皆さん，青森県りんご試験場の皆さん，寮の皆さん，農家の皆さん，長い間お世話になり，ありがとうざざいました。それに，青春時代に殆ど良い事ばかりだったと思っていますが，いろいろなことを思い出として作らせて下さった皆さん，誠に心から感謝致しております。

浦　添　　真優美

1. 研修機関　(1) 前期　横森正樹様（野菜）
　　(2) 後期　小林恒夫様（りんご）
2. 研修期間　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　野菜（レタス，キャベツ，はくさい，のざわな，にんじん，だいこん，長いも，山ごぼう，とまと，きゅうり，プルーン）
　　りんご（ふじ，つがる，おおりん，ようこう，スター，ネロ，こうぎょく，せんしゅう）

4. 当初の研修計画

私は，農家のむすめではないので，ぐたいてきには，勉強をしたいことはきまっていませんで

した。少しでもりんごと野菜のさいばいにちかづけたらまんぞくでした。

私が一ばんもとめてきたのは，じんせい勉強です。

5. 研修概要

野菜農家，横森さんは，おもにレタス，はくさい，キャベツ，のざわなを作っていましたけど，そのほかにトマト，きゅうり，だいこん，にんじん，長いも，山ごぼう，長ごぼうもつくっておられます。

私は，畑作りから，収かくまでなんでもやらせてもらいました。ひりょうまき，たねまき，手いれ，しゅうかく，しょうどく，その他。

りんご，せんてい，ひりょうまき，花つみ，てっか，ふくろかけ，葉つみ，ふくろはずし，畑の手いれ。

ぶどうのてきりゅう（摘粒）とふくろかけ。

私にとっていちばんの成果は，自分がほんとうに農業がすきになったことです。

私は，ほんかくてきに農業をやったことがありませんでしたので，なにからなにまでが勉強になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私がもとめてきたいじょうに勉強になりました。

7. 本邦での生活状況

私にとって日本での生活はむずかしくありませんでした。

前期も後期もいい農家にめぐまれましたのでもんだいは，ありませんでした。

わからないことは，なんでも聞きました。なるべく自分からお話をするようにしました。

もっともよかったと思うのは，自分が日本語をできることだと思います。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

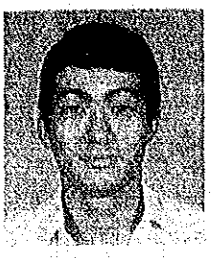
もっとせんばいとこうはいのこうりゅうをもとめます。

9. 所　感

私は，将来農業が出きるかは，わかりませんけど，なにかのかたちで農業に関係のある仕事をしたいと思っています。

日本での経験をいかして人のためになることをしたいと思っています。

遠　藤　　実



1. 研修機関　(1) 前期　小林恒夫様（りんご）
　　横森正樹様（ロジやさい）
　　(2) 後期　藤代　肇様（梨）
2. 研修期間　1989年4月～1989年9月
3. 研修職種　果樹および蔬菜

4. 当初の研修計画

日本語のべんきょう

日本農業をまなぶ（ぎじゅつ）

日本のぶんかをしりたかった

やはり，どうやって日本のような小さい国が，せかいのとっぷになれたのか，しりたかった

5. 研修概要

りんごのてっか

りんごのふくろかけ

りんごのはつみ

りんご園のじょそう，草かき

田うえ，いねかり，だっこく

りんごのしゅうかく，せんかとにづくり

スミやき

山しごと

たいひづくり

竹切り

梨園の草かき

梨園のあみはり

梨のてっか

梨のしゅうかく，せんかとにづくり

にわそうじ

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

まあ，日本語のべんきょうになりませんでしたが，とってもいいけいけんでした。

ちょっとざんねんでしたのは，一年間おんなじ農家でけんしゅうができなかったことです（かじつ）。

7. 本邦での生活状況

日本は，とってもちいさい国と思いました。そのわりにじんこうは，多いと思いました。ぼく

がおせわになりました農家では，かぞくの一人としてあずかってもらいました。
きんじょのみなさんといいこうりゅうができたと思っています。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

もっとみんなとけんがくりょこうがあったらいいと思います。そしてもっとべつの国のけんしゅうせいとこうりゅうがあったらいいと思います。

9. 所　感

この一年半のけんしゅうは，とってもいいけいけんだったと思っています。

ぼくは，三つの農家におせわになりました。それぞれいいところがありました。だけれど一ばんべんきょうになりましたのは，梨です。

ぼくは，ブラジルで日本梨をつくるつもりでいます。そしてすこしずつ日本でまなんだことをやっていきたいと思っています。そしてできるだけスーパーにおろしたいと思っています。

小　崎　周　二

1. 研修機関　(1) 前期　根津勝利様（山梨県東八代郡八代町）
　　田中　久様（　〃　中巨摩郡田富町）
　　(2) 後期　坂本武敏様（　〃　東山梨郡勝沼町）
2. 研修期間　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　ぶどう，もも，キウイ，トマト，キュウリ

4. 当初の研修計画

農業大学を卒業する前に，いつか自分で農場を持って経営をやりたいと思いました。それで日本へ来て人に使われながらじっさいの農業（日本の）を学びたい気持ちでした。その中でもうちでさいばいしているぶどうやいっぱんのくだものを目的としていました。ほかには両親が生まれそだった国，あるいは日本の教育のやり方を見たいこともありました。

5. 研修概要

研修はきぼうどおりにぶどうからはじまりました。一つ，一つの作業に日本のこまかいぎじゅつが含まれているのをかんじました。農家の人といっしょに働いてしつもんや話の中にいろんなもんだいてん，ぎもんてんがあらわれました。そういうことがどのようにかいけつされてるかを考えるたんびに，そのぎじゅつが身につく気がしました。

次にトマトとキュウリのハウスさいばいしている農家へ行きました。ブラジルではあのようにけいひをかけてやれば採算がとれないですが，勉強にはなりました。

最後の農家ではぶどうとキウイを見ました。キウイのばあいはあまり手をかけなくてできる作物ですが，せんていなどしょかんりにいろんなヒントをおぼえました。

ほかには，農家見学や，研修生たちとの交流の場があったのでひろいはんいでものごとは考えなきゃいけない事が感じられました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

ぼくの場合には当初の研修計画と実際の研修内容は一致するより実際の方がいい内容でした。ぎじゅつ，生活，人間かんけい，その他，すべてよかった。ただせいしんめんではかくごの上ながらもつかれを感じることがありました。

7. 本邦での生活状況

皆さんによくしてもらいましたが，家族によってはいろんなことをしてくれる中でもなにか自分ながら大変きづかいすることがありました。食事にはもんだいありませんでした。

農家の人と話しができることが一番でした。せけん話から技術面までいけんをかわしながら学んだ事がいんしょうにのこっています。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

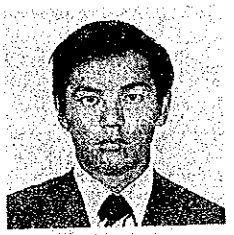
特に意見はありません。

9. 所　感

日本の農業，生活，人間かんけい，文化，いろんな物にかんするかちかんを見て，たしかに日本人は安定したくらしをやっています。けいざい的なゆたかさが感じられました。農家の一年をとおしたしゅうにゅうも大変なものです。でも生活費，学費，その他考えればそんなにゆっくりしていられるじょうたいではありません。家を建てるとか，土地を買うことになればむずかしいものです。

ブラジルでは，日本のいいところを取入れてきぼうをのばしていきたいと思っています。

瀬　口　　巧



1. 研修機関　(1) 渥美恭一様（菊　静岡県浜松市）
   (2) 鈴木修太様（バラ　静岡県菊川町）
   (3) 原田　誠様（バラ　愛知県武豊町）
2. 研修期間　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　菊，バラ

4. 当初の研修計画

私が選んだきぼうは野菜であった。でも花の勉強してよかったです。

5. 研修概要

一番目の農家は浜松市の渥美さん方で，菊の研修をしました。

菊の花切り，植えかた，ピンチ，芽ざし，芽かき，植える場所を作ったり，堆肥をまぜたり，

草をとったり，灌水パイプをつけたり，ハウスたてのてつだい，ビニールをはったり，ネットをはったり，畑の石をひろったり，シェイドのカーテンをあけたりしめたり，苗場を作ったり，ハウスのそうじ，古い菊の根を抜いたりしました。

二番目の農家は菊川町の鈴木さんで，バラの研修をしました。

バラの花切り，選別，結束，出荷，除草，堆肥をまぜたり，植えたり，灌水パイプをつけたり，古いバラを抜いたり，せんてい，枯れた枝を取ったり，芽かき，ピンチ，芽のせいりなどしました。

さいごに原田誠さん方でバラの研修をしました。

バラの花切り，苗のせいり，苗場に植えたり，土作り，植える場所を作ったり，植えたり，植えた所の土に空気をまぜたりバラに散布したり，さっきんざいとさっちゅうざい，芽のせいり，芽かき，ハウスをなおしたり，灌水パイプをつけたりしました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私のだい一きぼうは野菜で，だい二きぼうが花でしたが，私野菜より花をやってよかったと思いました。野菜はお父さんがもう25年もやっているのでほかのものを勉強してとてもよかったです。しらないものを作ってやって行きたいと思っています。

7. 本邦での生活状況

もんだいはありませんでした。とてもいい生活していました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

もっとこうはいたちと会えたらよかったと思いました。去年みたいにきたときはせんぱいと会ってそれと20人で8月に研修会があったように。

9. 所　感

私は花をやって行きたいと思います。とくにバラ作り。でも家では野菜作りであってバラ作りはブラジルしきではあんまりわからないので，またブラジルでバラの農家で研修して，バラ作りをやって行きたいです。それで日本で学んだことをつかえることはつかって，いいバラを作って行きたいです。せまいめんせきで，いいもの，量とってあたらしい農業やって，ブラジル一をめざしてがんばりたいと思います。

宮　本　正　勝

1. 研修機関　(1) 前期　中村孝康様
　　(2) 後期　佐原光一様
2. 研修期間　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　鉢花

4. 当初の研修計画

菊。そして，日本にきてさっぱりちがう花にはいり僕はシクラメン，ガーベラ，ガザニアを一年かんやりました。そしてのこり6か月間の勉強をしました。

5. 研修概要

僕は1988－4月から1989－9月まで日本へ農業の研修にきていろいろ農家のことが勉強になりました。農家ではいろいろいいところもありますし，そしてきびしい農家もあります。

でも僕たちはその山をのりこえてさいごまで研修をやってきました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

僕がブラジルでだしたきぼうはでんしょうぎくでありました。そして日本にきて鉢花を研修しました。

でも僕にとってほんとうによかったと思います。

7. 本邦での生活状況

ま，日本の生活はとっでもきびしいですね。

せいかつについてはほんとうにブラジルとまったくちがうです。ブラジルではのんびりとくらしております。日本のばあいはもうはしりまわっているみたいです。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

あたらしい研修生にはできるだけだい一きぼうにはいってもらうとみんなよろこぶと思います。

9. 所　感

僕は一年かん日本で研修をして，そして僕がまなんだことはほんとうにわずかなことです。

どうしてかというと，ま，日本の設備が10年も進んでいるのです。

僕がブラジルにかえってからの花の栽培をしたいと思います。

ま，日本で勉強したこと30％ブラジルで生かせたらいいと思います。

佐藤マリオ康宏

1. 研修機関　(1) 前期　㈱鈴江農機製作所。『組立てライン』
四国機器株式会社。建設機械サービス　センター。（ＣＡＴ　三菱）
四国機器株式会社。自動車サービスセンター。（ＦＬ課）

(2) 後期　四国機器株式会社。自動車サービスセンター。自販ＦＬ課（三菱フオークリフト）

2. 研修期間　1988年4月～1989年9月

3. 研修職種　大型農業機械整備『油圧関係修理』

4. 当初の研修計画

当初の研修計画は，下記のとおりです。

(1) 両親の故郷で進んだ技術を身につけたいため。ただ部品を交換するだけでなく応用する方法，又安全作業等も含めて。

(2) 日本の農業経営の実態を見てみたかった。

(3) 正しい日本語を学びたい。

(4) 故郷から離れ自分自身を試したかった。

(5) 日本の文化の良いところを学び，わが国の人々に知ってもらいたいため，この研修制度に応募しました。

5. 研修概要

(1) 前期

A．㈱鈴江農機製作所では部品加工から，機械が出来上がる所までの過程を学びました。

ビーン，ハーベスター，バインダー『1～2条刈』，管理機等のトランスミッション，ラインで組立て作業。

格納機械の組立てラインでの作業。組立てから梱包まで。

B．四国機器株式会社：ＣＡＴ三菱『建設機械』サービス　センターでは，

ブルドーザー，パワーショベル，タイヤローダー、フィニッシャー，等の油圧関係の修理及び点検，『測定器具の選び方や使用方法』，パワーショベルのハイドロリック　コンピュータ　システムの点検，ブレーカーの窒素ガス測定及び，窒素ガスの詰め換え。クレーンを使ってブーム，アーム　シリンダーの取り付け及び取り外し等安全な方法を学びました。

(2) 前期後半から後期

四国機器株式会社：三菱ＦＵＳＯトラック，バス，フォオークリフト，サービスセンター。自販ＦＬ課

三菱フオークリフト（1～40ton)油圧関係修理。

チルトシリンダー，マストシリンダー，パワーステアリングのオーバーホール（O，H），クラッチ（O，H）

特定自主検査（法令検査），定期自主検査（月例点検），納入点検，その他エンジン回りの修理。検査内容は下記のとおりです。

特定自主検査：原動機，動力伝達装置，操縦装置，制動装置，走行装置，荷役装置，油圧装置，電気装置，総合テストを含め，170項目の検査が毎年1回行われます。

定期自主検査：原動機，動力伝達装置，操縦装置，制動装置，油圧荷役装置，電気系統，ＬＰガス，その他。56項目の検査をします。『ＬＰガスを使用していない機械は，53項目です』。

毎月行われます。

納入点検：お客様に納める前に，すべての装置点検，塗料がはげていないか等検査します。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画と実際の研修内容とを比較してみると，初めにお世話になった会社では，組立てラインでの作業が多く，修理や整備をする機械が全く無かったため勉強にならないような気がしました。

ＪＩＣＡの担当者に相談して，新しい研修先を探して頂き，前期研修の途中から研修先を変わりました。

今，振り返ってみると，高知県では，人間関係の大切さ，大都会には無い心の暖かみ等，研修職種以外の事で，僕にとってプラスになった貴重な体験が出来ていた事が分かりました。

次の研修先では，工場で研修するより，現場へ行き少ない道具で修理や整備をするため，とても良い経験になりました。

主な現場は，高松新空港，高松高速道路，リゾート地建設（ゴルフ場），農道の工事現場等，研修を受けながら，見学ができました。

フォークリフト課でも，出張してのサービスが主で，香川県内で使用されている約700台（三菱フォークリフト）の定期自主検査や特定自主検査をして回りました。

主な行き先は，県内の農協，運送会社，廃棄物処理センター，酒屋さん，コンクリート会社，材木屋，パルプ工場，食品会社，原子力試験場，三菱金属（精錬所），三菱電気，その他，様々な所を見学する機会が有りました。

7. 合同研修会について

僕達研修生にとって合同研修会は，各国の研修生との交流の場でもあり，同じような悩みを持つ同期生や後輩達とポルトガル語やスペイン語で語り合い，お互いに励ます一時でした。

この制度を末永く続けられることを心から願います。

8. 本邦での生活状況

研修生活を送るにあたりアパートに入居し研修先に通うことになりました。入居の際，生活を送るに当たり必要とされる家具，家庭用品，食器類等親類に貸してもらい助かりました。

僕が，国を出る時，会社の寮で生活をするようになるから心配しなくても良い，と聞かされていたので，一時はどうしようかと，思いました。

２回共，優しい家主さんに巡り会え，寂しいだろうからと，人を紹介して頂いたこともありました。次第に友達も増え色々な事を教えてもらうことが出来ました。

会社やアパートの周りの人から，ボウリング，スキー，ＪＥＴ　ＳＫＹに誘って頂き，週末は楽しく過ごすことができました。

9. 今後の研修制度に対する提言及び要望事項

これから来日される研修生は，

a) まず日本語を良く学んで来ること，せめて，本を読んだり話がスムーズにできる程度。

b) 専門用語を少しでも多く理解するため，英語を勉強して来ると何かと便利です。

c) アパート暮らしをされる方は，特に食べ物などに気を付けて下さい。『夏場には食べ物が傷みやすく，腹をこわすことがあります』

d) 郷に入っては郷に従えの如く，日本の習慣の中に溶けこんで下さい。

10. 所　感

第18回移住者子弟研修生として来日し，早くも1年半の研修期間を終えることになりました。この期間中パラグアイではとても体験できない事を経験することができました。又，この機会により優れた先進国で技術を身につけることが出来たことを嬉しく思ってます。

この研修により習得できた技術，知識を日系集団移住地だけでなく，パラグアイの農業の発展に役立てるのが僕の努めであり，皆様のご期待に応えることになるよう努力したいと思います。

最後になりましたが，国際協力事業団移住者子弟研修生担当者の皆様，鈴江農機製作所並びに，四国機器株式会社の皆様大変忙しい毎日でありながらも，快く御協力や技術指導して頂き誠に有り難うございました。

島　　郁

1. 研修機関　(1) 前期　北海道夕張郡栗山町農業協同組合
　　(2) 後期　　〃
2. 研修期間　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　農協一般事務

4. 当初の研修計画

先進国である日本の農業協同組合の基本的知識，経理中心の一般事務，農業に関する輸出入事務等を学ぶために研修生として来ました。

5. 研修概要

・農業協同組合の財務経理システム：

ここでは主に販売の経理の実習をおこなうことができました。もっともよかったのは自分に販売の経理をさせていただいたことでとてもいい勉強になりました。

・肥料推進：

年に一度の肥料推進を行い，私は肥料専門員の人と回る事ができ，肥料についての指導を受けることができいい勉強になりました。

・貯金共済：

普通貯金，定期貯金，定期積立金，スーパーMMCの推進の実習

・融資部門：

長期貸付金，短期貸付金，カードローン，農業者年金（特に年金はパラグアイでもあるけれど，ないと同じようなもので何かの方法で取り入れたいと思っています。）

・農協青年部組織活動：

町外視察研修，農協青年部部員研修会，空知管内青年部リーダ研修会，札幌市白石区との交流会，玉葱振興会との現地視察，道内農業視察研修，初級管理者研修会（北海道農業協同組合学校）

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私にとってこの一年半の間希望以上の事を学ぶことができて満足しています。

その他にもいろいろと勉強ができたことがとても良かったです。

7. 合同研修会について

合同研修会は，研修生全員が集まってそれぞれの研修状況について話す機会でもあり，意見交換したり，先輩のアドバイスを聞いたり，また，後輩へのアドバイス，悩み，苦しみ，ストレス解消や日本での色々な出来事について話せる機会です。この研修会によって研修生同士の友情をひろげることができます。これからも合同研修会は続けてほしいです。また研修旅行では日本の文化歴史などを見られてとてもよい勉強になりました。

8. 本邦での生活状況

最初の一ヶ月は横浜の移住センターで日本語の勉強，生活習慣等の講習があって，とてもいい勉強になりました。

講習が終り研修生はバラバラになって，私は北海道で研修を受けるようになりました。

日本へ来て初めての一人暮らしだったので，さびしい毎日と不安でしたけど，自分なりの自由な生活をおくることができました。

自炊だったので毎日何を食べたらいいのかわからない日が続きました。

時が過ぎて行き日本の生活にもなれ，友達ができ，研修先の人には色々と物を貸して貰ったり教えてもらい無事研修を終えることができました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本での研修は思っているほど楽ではないので，日本語をできるだけ多く勉強してから来ること。

研修の計画を来る前から立てて来るといいと思います。

研修先では努力，責任感が必要です。

なるべく友達を作って困っている時，ホームシックの時，友達との相談が大切です。

研修であろうと遊びであろうと，何事も悔いの残らないように一生懸命楽しくやることが大事だと思います。

10. 所　　感

第18回移住者子弟技術研修生として来日して早くも一年半の研修を無事終えることが出来ました。

この期間中パラグアイ国では出来ない様々な体験を経験をすることが出来ました。

帰国後日本の進んだ技術をパラグアイの農協で今すぐ役立たせるのは無理ですが，何かの方法で生かしたいと思っています。

最後になりましたが国際協力事業団の皆様，栗山町農業協同組合の皆様大変忙しい毎日でありながら快く指導を頂き誠に有難うございました。

日本に研修に来たことをすごくうれしく思っております。

堀　川　　由紀子

1. 研修機関　(1) 前期　秋田県農業試験場
　　(2) 後期　農林水産省，東北農業試験場，畑地利用部
2. 研修機関　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　農業化学分析

4. 当初の研修計画

土壌分析および保全，施肥改善。

5. 研修概要

前期研修

1) 土壌学全般（土壌分類，土壌系統）
2) 土壌の物理性の測定（三相分布，ＰＦ，粒径分布，透水性，土壌水分）
3) 土壌調査，調製，診断，試料採取
4) 土壌標準分析の測定
　4－1　ｐＨ，ＥＧ
　4－2　中和石灰量
　4－3　全炭素，全窒素（乾燃焼法，ＣＮコーダにより）
　4－4　全窒素（ケルダル法）
　4－5　アンモニウム態窒素
　4－6　硝酸態窒素（デバルタ合金還元法）
　4－7　りん酸吸収係数
　4－8　可給態りん酸（トルオーグ及びブレイ第二法）

4－9　陽イオン交換容量（ＣＥＣ）

5－0　交換性陽イオン（Ca，Mg，K，Na）〔原子吸光法及び炎光法〕

5）生菌数（希釈平板法）

6）各内容の講義

7）作物体の硝酸態窒素，全窒素（セミ，ミクロ蒸留法）；過塩素酸分解（カリ，カルシウム，マグネシウム，りん酸定量）

8）各分析の試薬の作り方

9）硬度（山中式土壌硬度計法及び貫入式土壌硬度計（自動記録型法））

後期研修

1）有機物資材とコマツナの生育

2）有機物資材と土壌動物

3）畑作物栽培管理

4）植生条件と土壌動物

5）土壌動物の分離抽出及び検索

6）作物体の蛋白質の定量

とても良い成果を得ることが出きました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画より，よそう以上に沢山のことを学ぶことが出きてとてもまんぞくです。

7. 合同研修会について

私達にとって合同研修会とは，それぞれなれない土地で研修をして，そして半年後それぞれおたがいに研修をした成果を発表しあい，またひと時の喜びの時間でもあります。人には喜びがあって次へと進むことが出きるのではないかと思います。ですから合同研修会は私達にとっては次の研修へのエネルギーの補給だと思います。

8. 本邦での生活状況

祖国と異なった環境でしたので，なれるまで大変であり，また複雑な生活でした。私は顔も肌も日本人と変わりがないので，周りの人々は私を日本人だと思い，それが私にとってはきびしかったが，親切な方もいて助かりました。一番こまったのは，市役所，銀行への手つづき，バスの行先の土地名など読めないのが沢山あり，そのたびに聞いていましたが，その後日本語の勉強だと思い，町を歩いていてどうしてもその漢字を読みたい時にはメモをして家でしらべたりしていました。その方法も読み書きの勉強になりました。

日本へくる時，ある日本の専門家の方がいってくださいました。“あなたは二世だからこそ日本語をじょうずになりなさい”と言ってくださり，そのことばは私をとても大きくさせてくれました。おかげさまでこの一年半で読むこと，書くこともじょうたつできました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私の意見としては，今後の子弟研修生の方には日本語はそう書けなくても読めること，そして話せることが必要ということ。それによって研修中の成果の得られ方は違うと思います。また祖国でその研修職種経験があるとないとでこれもかなり違いました。それによって経験があると研修先で，本人も理解しやすいし，さらにご指導してくださる方も二倍，三倍の手数はいらないのではないでしょうか。

研修中にはなるべく多くの本を読むこともだいじだと思います。

これは私の経験です。

10. 所　感

日本は私の国と異なって色々な面で発達していて，おどろきました。私は来日する前には日本はこれほど発展しているとは思っていませんでした。来日し，研修先に行きますと，それは皆様方は仕事中はとても熱心でしたので，国が発展してゆくのもこのせいではないかと思いました。私もそのような中で研修をして少しは一つのことについて集中して仕事が出きるようになりました。

帰国後，日本で研修したことを実らせ，それによって私は本当に日本に研修に行った，それが夢ではなかったと思えるよう頑張りたいと思います。東北農試の部長さんが，心にのこるようなすばらしい言葉を言ってくださいました。"福島での研修の粒の種が南アメリカの大地に根づいて発展してくることを希望して"。本当にこのようになりたいと思います。花が咲かなくとも根がつき葉がしげるところまでこの研修を生かし，それによって研修先でご指導くださいました皆様方，一年半ご協力くださったＪＩＣＡの皆様方への報告になるでしょう。

本当に遠い国日本まで研修にこられてとても幸せでした。

松　宮　　八重子

1. 研修機関　(1) 前期　大阪市立大学・生活科学部食物学科。富士通不動産株式会社・大阪分室栄養部。

(2) 後期　恩賜財団済生会横浜市南部病院栄養部。横浜市神奈川保健所

2. 研修期間　昭和63年4月～平成元年9月

3. 研修職種　生活改善（栄養学）

4. 当初の研修計画

第一八回移住者子弟研修生として応募したきっかけは，私が住んでいるエンカルナシオン市を

初め，両親の住むチャベス移住地やその近辺では，文明社会への一歩として道路の舗装，電化が進められており，それらと共に多方面で生活改善の必要性が増してくると思ったことです。一年や二年で，簡単に改善が出来るほど容易な事ではありませんが，少しでもその手助けが出来れば幸いと思い，そのために必要な栄養学・環境学の基礎的知識を会得することが，当初の私の研修計画でした。

5. 研修概要

私の研修内容は栄養学及び環境学です。4月10日の入学式から始まりました。

来日前は短大と聞いていましたが，実際には四年制大学へ入学が決まっており，多少不安を感じたことを記憶しています。一，二年の一般教養の科目は取らず，帰国してから役に立ちそうな三，四年生の専門科目を教授と相談の上選択し，講義を受けることになりました。最初の二週間は疲れも多少残っていたせいもあって，授業について行くのが精一杯でしたが，次第に慣れて行くに従って日本，外国の友達も出来，充実した日々をおくることができました。

大学（4月から2月）では次のような科目を受講しました。調理学は調理学実習と平行して日本の主食とも言うべき「米」の成分やその栄養素，及び炊き方，洗米の回数によって溶出物，粗脂肪，灰分の割合が左右するなどのことを学びました。又，多種多様の食品の成分や添加するものによって変化し，酸化する過程を実習を通して細かくチェック出来ました。実習の過程としては，和，洋，中華の基本料理をもとに献立を立て，グループ別に調理し，出来上がりの硬さ，色合い，味，盛り付け，試食という順でした。

6月には約一週間の日程で調理科学の実験を行いました。実験項目は6種類におよびました。(A) クッキーの調理では硬度，官能検査；(B) 塩，酢を用いて味の識別能力検査；(C) 鶏卵の熱凝固性はカードメーターを使用しての2点嗜好試験；(D) 食品の色の変化；(E) 糖液の粘度測定や，(F) デンプンゲルの粘度測定はそれぞれオストワルド粘度計とB型粘度計で測定しました。

栄養指導論では指導の目的，食生活の調査の必要性，食生活に関係する諸要因の検討，食生活と疾病等について受講でき，健全な食習慣の育成が疾病を予防し，健康の保持増進に役立つものだと悟ることができました。又，日本だけでなく，米国，カナダ，スエーデンやオーストラリアの食事指針も，ほんの一部ではありますが把握できたように思います。

指導者はどうあるべきか，ただ単に知識の詰め込みで良いのか。私は相手の立場，社会的地位を把握する必要があると思います。人間の第一の社会的地位は「家族」，言わば家庭に始まり，家庭に終わると言っても過言ではないほど大切な集団であり，その集団が一社会に存在するには何を重視すべきかは「家庭教育論」の受講により修得しました。

大学外では，大阪ガスの食品加工工場を見学させて頂きました。又，一カ月間という短い間でしたが，富士通不動産の栄養部において栄養士業務，献立作成，分量の決め方，発注，検品，材料の切り方や盛り付けの方法，検食，棚卸しに至るまで実習できたことを幸せに思います。

後期の4月からは研修機関を変わり，済生会横浜市南部病院・栄養部で研修を受けました。当

病院の種類，各病気に必要な栄養素及び制限すべき物質についての理論等を学び，一つ間違えば大変な事態になるなど，病室訪問等に自分の目で見ることができました。又，患者サービスの一環として，食事は栄養士自ら配膳に当たっていました。栄養部外での研修は育児指導，調乳指導や，理学診療科及び作業療法を見学させて頂きました。

研修も末期にさしかかり，9月4日から14日までの10日間は私の希望もありまして，保健所で実習することになりました。病院とは一味違った指導方法を取っていて，双方との比較ができる大変良い機会になったと共に，改めて日本の医療制度の高度さを痛感しました。今までのいろいろな体験を，帰国後少しでも役に立てば…と思うのです。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容を比較して

当初の研修計画は生活改善のための基礎的知識及び栄養士の資格を獲得する事でした。大学が四年制であったため，資格を獲得する希望は断たれましたが，1カ月間の産業会社での実習，病院，そして保健所で研修出来たことを嬉しく思います。思ったより広範囲に亘って研修でき，又，本来一人だったら見学できない正田醤油㈱の工場を，富士通を初め，多くの方々のご好意によって見学でき，又，南部病院からは5～6回に亘って栄養士会，サニテーションの講話に参加出来ましたので心残りはありません。

7. 合同研修会について

一年半の研修機関中何度かに分かれて合同研修が行われましたが，家を遠く離れ，日本を訪れるのが初めての私達にとっては，まるで親や兄弟に会うような，そんな感じがしました。

不慣れな日本での生活，研修，その他の問題点など，国際協力事業団の担当者を初め，先輩方の適切なアドバイスを得る事ができ，とても参考になりました。

8. 本邦での生活状況

私は研修機関が大学ということで，皆より一足先に（来日6日目）大阪へ行く事になっており，移住センターでの約一カ月間におよぶ日本事情等の研修が出来なかったのは残念に思います。幸い生活や言葉に不自由することもなく，通学も30～40分で通える所でしたので大変恵まれていたと思います。府営アパートでの一人暮らしは多少心細いながらも，親類や知人が近くに住んでいましたので，たびたび相談を持ちかけたり，又，精神的に疲れた時は先輩との会話が，ストレスの良い解消法になっていました。

嬉しかった事と言えば，やはりいろいろな所へ旅行できたことです。親類，友人との旅行，又大学からは留学生の交流をかねた，長野県白馬村の研修セミナーに参加し，世界各国の人々と知り合うチャンスを与えて下さったことに対し，深く感謝致します。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

南米諸国への日本人移住が戦前から始まっており，徐々に日系社会を築き上げて参りました。今日では，一世から二世，三世へとバトンタッチされています。これからの日系社会を盛り上げて行く，中心人物の人達を一人でも多く，多方面の分野の研修を少しでも増やして頂き，この制

度により，受け入れていただきたいと思います。又，来日する際には，パスポートの獲得等で時間が掛かりますので，合格通知は来日２カ月前には送って下さるよう，配慮して頂きたいと思います。

10. 所　感

パラグアイで生まれ育った私は，日本へ行くことが子供の頃からの夢でした。以前は，貴女はパラグアイ人ですか，それとも日本人ですか，と聞かれてもどちらとも言えない部分がありました。日本語を話す機会が比較的多かったせいか，日本に来ても日本人以外の何者でもない，と言われ，喜んで良いのかどうか，感情を表すのに困った事もありましたが，今では素直に受け止めています。

大学の講義及び実習で得た事，また病院給食や配膳等，患者一人一人に届けることでコミュニケーションを持つことができ，日本人がどのような考え方をしているのか，多少理解できたように思います。又，日本の学問及び医療の高度さを痛感したと同時に，今までご指導下さった方々には，敬意を表してやみません。

帰国後は研修で修得したことを生かし，地域，あるいは国の発展のお役に立てれば幸いに思います。

末筆となりましたが，この研修にあたって，色々お世話になった国際協力事業団の方々，研修先の先生方，又，心のよりどころであった同期の皆様には，心から厚くお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

井上シルビア雅代

1. 研修機関　(1) 前期　岡山大学農学部（花卉研究室）
　　(2) 後期　フジ・ナーセリー洋らん&グリーンショップ（有限会社）
2. 研修期間　1988年４月～1989年９月
3. 研修職種　花卉園芸（蘭栽培）

4. 当初の研修計画

昭和63年４月来日し当初はランの培養及び栽培を目的に岡山大学に入学し日本語，そして植物学の基礎を最初から勉強することとなった。

大学においては日本的システムによる勉強にとまどいを感じながら，すぐにも慣れ親しむことが出来，それと同時に日本語も日ごとに向上しました。植物は我が国では日本ほどシステム化されておらず，その基本を充分勉強出来たことは今後の仕事に生かす意味で非常に有益であったと考えられます。

5. 研修概要

大学において当初は日本語の不足もあり２ヶ月程は植物学の理論を中心に講義が一日の殆どであり，専門的な言葉を完全に理解することが出来るようになってからは他の大学生と同様の授業，実験，実習の生活になりました。知識の幅を広げるために色々な視点から，枠にとらわれず栽培及び花の全般についての学習が出来，又自分の知識をより豊富に出来るような内容でありました。

例えば，

植物学基礎，応用，研究及び視察研究等。

上記の内容を十分に勉強でき，その成果として知識視点拡大，技術の的確な把握及び応用技能の向上がありました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の計画では栽培に限定されていましたが，先生の配慮により基礎から始まり応用に至る広い範囲の知識，技術の習得ができ，又，時間の許す限りにおいて新分野のフラワーアレンジメントの世界まで勉強でき，非常に有益でありました。

7. 合同研修会について

各分野において各国からの研修に参加している人の意見を違う視点から聞くことができる合同研修は非常に意義があり，研修においての悩み，進行状況等を自国語で自由に話せる場の合同研修は非常に良いと考えられます，又，色々な問題を討議したり，また，自分が理解，納得するまで説明してくれるのは他の研修場所にない利点であると思いますのでこれからも研修生の意見をとり入れ，より素晴らしいものにしていただきたいと思います。

8. 本邦での生活状況

長期生活する上で，アパート生活は，時に快適でもあり，時に不自由な点もあると思われます。私の考えとして，日本の文化及び考えかたを充分に理解するには家庭に寄宿する方法もあっていいのではないかと思います。それにより不自由なこともあるでしょうが，学ぶことも多々あると考えられますので，これからの人生の中での数ヶ月をそのような経験をしてもムダになることはないように考えられます。

又，物質の豊富な日本の生活は快適であると同時にこれからの自国での生活の反面教師となり，時には恐い事もあります。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

システムは素晴らしいと思いますが，日本での受け入れ態勢に未だ充分でない点があります。特に我が国の事情，情報等を関係研修先に送付していただければ私達に対する技術移転もよりスムーズに進み，お互いの誤解に発展することもなくなり，研修成果ももっと向上すると思われます。

要望としては１年間は基礎的なことに研修的要素も，２年目は実習を２ケ所くらいに分けていただき，３年目は自分の技術の完成の時間として，又将来の応用としての勉強ができれば最高の

研修となると考えられますので，一考して下さればとおもいます。

10. 所　　感

このたびの日本研修に関しての政府及びＪＩＣＡの皆様方の甚大な努力に対して心から感謝の意を表したいと思います。この厚意に対して私のできることは帰国後一日も早く研修した成果をとりまとめ，自分のこれからの人生にいかすことと考えます。それと同時に自分だけのものとせず必要とされている人達に西訳して是非役立てたいと考えています。

この研修で習得した知識，技術，その他の経験は我が国の発展に大きく寄与するとともに我が国の発展の礎にすることが私の希望であります。

宮　脇　依　子

1. 研修機関　(1) 東芝エンジニアリング株式会社
　　(2) 同　上
2. 研修期間　昭和63年４月～平成元年９月
3. 研修職種　プログラム設計，作成，システム分析

4. 当初の研修計画

日本のように進歩している国でコンピュータの操作方法，プログラムの設計，作成，そしてシステム分析の技術を習得し，又，両親の生まれ育った故郷で，日本語の読み書き，正しい会話や社会勉強するのが私の目的でした。

5. 研修概要

１－プログラム言語

ＦＯＲＴＲＡＮ言語とＣ言語

２－操作した機械

Toshiba J3100

VAX/MS

HP (Hewlett・Packard)

Toshiba AS3000 (EWS Engeneering Work Station, multi window)

NEC 9801 (Personal Computer)

ワープロ花子

３－操作説明書の作成

形成図，ファイル帳，フローチャート，プログラムの説明書，画面の設計，作成，ソースファイルの流れ，リストの設計，サブルーチン仕様書，関係仕様書から工程表作成

４－見学

東芝京浜事業所

東芝青梅工場

東芝姫路と大子工場

野洲日本ＩＢＭ工場

ＮＥＣ玉川日本電気事業所

田町ＮＥＣ日本電気事業所

5－作成したプログラム

データ入力“Simulation Data Maintenance”（ファイル設計，作成，配列，サブルーチン，COMMON）

ファイルのデータをプリンタ又はCRT(ディスプレイ）に出力

カラーグラフィック作成

ファイル転送のプログラム（AS3000からRS232CでVAX/MS，又はVAXからRS232CでAS3000へと通信しました。）

UNIXのDATA BASE の使用。

ここまでは実際のJOBの一部を受け入れて仕事しながら学んでいました。

最後に研修期間に学んだ事を生かして自分で簡単なシステムを作成しました。“JOB管理システム”

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修にきた頃はコンピュータの操作もできなく，僅かな知識を持っていました。１年半の研修を振り返ってみると当初の研修計画以上にいろんなことを学ぶことができ，多くの進んだコンピュータの技術を修得でき，今は自信を持ってプログラム設計，作成，又，システムの分析が出来るようになったと思っています。

7. 合同研修会について

六ヶ月に一度，研修生全員が海外移住センターに集まって先輩のアドバイスを聞き，私達は二，三世なので日本の習慣には簡単になじめない事があり，そのアドバイスは役にたちました。　両親と初めてはなれて来た人もたくさん居り，いろいろな問題がおこる事も有り，この合同研修会を楽しみにして研修先で頑張って，仲間に会い，話し合ったり，旅行したり，さわいでストレス解消をしたり，励ましながら力を合わせて頑張ってきました。

この半年に一度の五，六日間の合同研修会の時間は私達にとってとても大切なときでした。

今後の研修生のためにも合同研修会を続けて下さい。

8. 本邦での生活状況

国際協力事業団海外移住センターで一年半お世話になって大変感謝しています。

毎日の生活に困る事もなく，南米生まれの研修生，移住研修生，開発青年，移住する方のいれ替わりが激しいけれど人間関係の勉強にもなりました。

この団体生活でいろいろな事に出合い，苦しい時や，悲しい時，楽しい時にも皆で気を合わせて頑張ることができ，今，自分の成長を見てみると，最高に良い体験でした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

子弟研修制度に応募する皆さんへ

a) できるだけ日本へ来る前に日本語の会話，読み書きが出来るように勉強して来るのが良いと思います。

この知識を持ってくれば望んでいる研修以上の事を勉強することができます。

b) 研修の効果を良くするためには研修目的をはっきりして，少しでも専門用語の勉強をして来た方が便利であります。

c) 日本では，たくさんの友達を作り，旅行して，日本の文化や歴史，そして南米で出来ない日本の社会勉強をするのも良いと思います。

d) 研修先で，わからない事は，はずかしいと思っていないでその場で直ぐ聞くことです。

e) 困っている時や，ホームシックにかかった時は一人で悩まず，友達と話し合うことは大切です。

f) 団体生活する者は決められた事は良く守って，協力する心を忘れず，又仲間外れにならないように頑張って下さい。

10. 所　感

この一年半を振り返って見ると，あっと言う間に過ぎました。つい最近日本に着いたような気がします。

春の美しい緑の山々や満開の桜の花，秋の素晴らしい紅葉，そして大都会のキラキラした魅力的な夜景がとても印象的でした。

そして経済の安定した日本では，欲しい物，買いたい物，食べたい物なんでも働きさえすれば手に入れることができます。

あんまり貧しい暮らしをしている人はいないと思いました。

何時になったらアルゼンチンも昔のように豊かに暮らせる日が来るのかといつも思っています。

帰国後，東芝エンジニアリングで学んだことをできるだけ生かして，一人でも多くの人達に伝え頑張って役立ちたいと思っています。

この研修だけでなく，日本での生活や経験したこと，日本人が大変努力家であることも伝えてあげたいと思っています。

私にとってこの一年半にはいろいろな出来事があり，楽しい時もありましたが，辛い時も多くあって，生まれて初めての経験でした。

研修中には帰国したいと思ったこともありましたが，我慢して最後まで頑張って良かったと思っています。

最後になりましたが，この機会を与えて下さった国際協力事業団の方，研修中見守って下さっ

た海外移住センターの職員の皆様，専門の知識を与えて下さった東芝エンジニアリングの皆様，そしていろいろとおうえんして下さった方々，同期の研修生の皆さん，心に残る良い思い出がたくさんできましたこと，心から感謝しています。

長い間大変お世話になりました，本当に有り難うございました。

新　垣　春　乃

1. 研修機関　(1) 前期　神奈川県立藤沢高等職業技術校
　　(2) 後期　　同　上
2. 研修期間　昭和63年4月～平成元年9月
3. 研修職種　洋裁（アパレル技術）

4. 当初の研修計画

中・高校時代，家庭科の時間に洋裁を教えてもらえなかったせいなのでしょうか，洋服を縫えるという人がとてもうらやましく思えました。

そこでぜひ自分も服が縫えるようになりたい，そして学校の生徒にも教えてあげたいという気持ちからこの研修制度に応募してみました。

第一目的としては，日本の学校へ行って，日本人として洋裁の勉強を基礎から学びたい，そしてその傍ら日本語の勉強にもなるのではないかという事でした。そして第二，第三の目的として，自分の両親の故郷とは，どんな所なのだろうかという興味から，日本の文化，習慣等を，自分の目で見てみたいそして理解できるようになりたいということでした。

5. 研修概要

私は，藤沢技術校の2年課程アパレル技術系に入学しました。前半は，アパレル製品制作用具取り扱い，アパレル製品制作技法，基礎縫いの仕方，パターンメーキング，生産管理，被服デザイン，被服科学，平面構成技法，色彩構成技法，デッサン技法，等のように洋裁をやっていく為の心構えを学びました。

この一つ一つの単元は，さらに細かい単位で構成されています。その他にも校外訓練としてハイキング，サイクリング等他の系との交流を深めるために年2回，おこなわれました。

球技大会も同じ理由で年2回ほど行なわれました。

前半で一番心に残りました事は，文化祭でファッションショーをやった事です。自分達で初めて完成させた服を着て発表した事でこれからのことについて自信が湧きました。

そして流行に関して新しい知識を取り入れる為に年2回ファッションショー等も見に行きました。そこでは有名なデザイナーの作品も発表されますのでシルエット，縫い方などの勉強にもなりました。

2年生になりましてからは，コンピュータハードウェアの基礎，コンピュータ操作法の基礎，プログラミングの基礎，ワープロ操作の方法，アパレルコンピュータのシステム構成，A．CAD（アパレルキャド）マーキングの仕方，ドレーピングの基礎，サンプル縫製，等をやってきました。その他にも1年生の時と同様に校外訓練，球技大会，ファッションショー等を見に行きました。それから2年生にもなりますと，今度は就職活動がありますのでクラスの皆といっしょに混ぜてもらい会社見学などもやりました。

そして最後の一ヶ月間は，研修最後の月という事でクラスの皆とは，別行動で自由課題をやりました。

その他にもセンターからの会社見学がありまして神戸のワールドという婦人服の企画部を見学させていただき，大阪では三幸衣料という紳士服既製服工場の見学もさせていただきました。

このように学校でのやり方と会社，あるいは工場でのやり方も見てきましたので来日以前よりも教え方，物の見方などに変化がおこりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画は前にも書いたとおりなのですが，洋裁の基礎というだけで紳士服，婦人服どちらを主にやりたいのか自分でも分かりませんでした。けれども日本に来て学校へ通いはじめ主に婦人服をやって来たのですが，自分の望みどおりに基礎的な事を学ぶことができました。他に紳士服の方も，休み時間等暇をみてやってきました。

それから会社見学などもさせていただきましたので，今までとは違った感覚でこの業界を見ていくことが出来るようになったような気がします。

7. 合同研修について

半年ごとに行われるこの合同研修会は，私達にとってとても励ましになり，また心の支えにもなりました。

研修生全員にそれぞれ問題点があり，話し合ったり，意見を交わしたり，励ましあったりして良い方向へ進んで行くことができました。

それからこの合同研修会が行なわれる度に研修生の1人1人と友情を深めることが出来ました。

そしてまた，研修生の皆にどのような変化があったのかな……などと会える日がとても楽しみになりました。

8. 本邦での生活状況

私は1年半，海外移住センターから学校へ通いましたので不便な点は全然ありませんでした。

センターは人の出入りがとても激しくいろいろな国々の人達と知り合うことができました。それから違うコースの研修生と共に悩みを話し合ったり，喜び，楽しみ，悲しみを分けあいながら今日まで過ごして来ましたので何だかセンターの皆が自分の家族のように思えます。

けれどもそういう事が出来るのも束の間，またあっという間にお別れがやって来て，その時ほど淋しい時はありませんでした。

私にとってこれが初めての団体生活だったので，とてもいい経験になりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私は一年半，学校へ通いましたが，そこで一番困った事は，漢字の読み書きです。ですからこれからの研修生へのメッセージとして１コでも多く，漢字の読み書きが出来るように努力してほしいです。

それから研修先へ行きましたら控え目なのもいいのですが，周りの人達から自分の存在を忘れられがちなので，なるべく他の人より一歩先を歩き明るく楽しくやれば自分で納得のいく良い研修が出来るのではないかと思います。

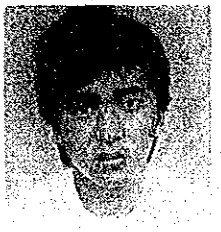
10. 所　　感

子弟研修生として来日して早くも18ヶ月が過ぎてしまいました。この期間中，ボリビアでは体験できないような，様々な事を経験することが出来ました。又，技術的に最も優れた国で技術を習得することが出来とても嬉しく思っています。

けれども帰国後，今まで学んで来た事を，どのように活かすかどのように役立たせるかとても不安です。けれども何らかの方法で役立たせるのが私の務めでありますから，皆様の期待にこたえることが出来るように努力したいと思います。

最後に，ＪＩＣＡの子弟研修生の担当者の皆様，それから技術校の皆様大変忙しい中，特別にご指導いただき誠に有難うございました。

林　　暢一朗



1. 研修機関　(1) 前期　愛媛県立果樹試験場
　　(2) 後期　農林水産省十勝種畜牧場
2. 研修期間　昭和63年４月～平成元年９月
3. 研修職種　柑橘類の栽培及び畜産（接ぎ木，剪定，肉牛の肥育管理及び人工授精）

4. 当初の研修計画

日本へ来る前，色々な研修機関がある事を知りました。その中でもっとも名の知れているＪＩＣＡに応募し，18期生の研修生として日本へ来れた事と，自分の希望通りの研修先へ派遣された事をあらためて感謝しております。

私の家では養鶏，酪農，果樹栽培と多角経営の農業をやっております。しかし酪農と果樹栽培があまり好ましい経営ではないため，農業専門学校を卒業している私ですが，もう一度自分の知識を考えなおす必要があると思いました。そのため私は，勝手ながら果樹栽培そして肉牛の管理と全く関係のない二つの研修を希望しました。

果樹の方ですが，栽培上の管理，剪定（せんてい）そして接ぎ木を，肉牛の方は肥育管理と人工授精をこの実技研修の中で行えれば幸いだと思っておりました。

5. 研修概要

“当初の研修計画”にも書いてあるように，私は二つの全く関係のない研修を行いました。

前期の研修として愛媛県立果樹試験場で柑橘類の栽培の基礎，接ぎ木，剪定の実習を行うことになりました。

しかし，果樹というものは自然に左右されるので，日に日にちがった作業をさせられ，自分はこのような仕事をしに来たのではないと，心に思ったものです。しかし，後で考えてみるとこれが本当の栽培の基礎なんだという事を知り，不満を口にださなかったことをよかったと思っております。

栽培の基礎といえばまず土造り，とくに愛媛県の場合は斜面が多く農耕機も入らないので，ほとんどが手作業でした。草を刈り，スコップで耕し，肥料をまき苗を移植する。そして，苗が育てば病害，害虫，雑草などの“早期発見，早期対策そして実行”を心がけ，苗を守り大切にすることを学びました。

柑橘類の接ぎ木は春先に行われます。私がこの試験場へ入った時はもう接ぎ木の時期は過ぎており，実際に行うことができず，コツだけを教えていただきました。

一本の木を枝に分けると，主枝，あ主枝，束枝，母枝のように区別します。この中の母枝を穂木として使い，そして母枝の中でも夏にでた母枝が接ぎ木に一番適しているといわれています。

主枝，あ主枝，束枝，母枝の特徴をいかし切り整える事を剪定といいます。

剪定は二種類あり苗木の剪定と成木の剪定に分かれます。さらに成木の剪定はミカン類（温州，ポンカン，など），晩柑類（オレンジ，伊予柑，夏柑）に分けそれぞれちがった剪定を行います。

苗木の場合はミカン類，晩柑類同様，それぞれの大きさによってあらかじめ葉数を仮定し，その数の約三～四割を取りのぞくように，主枝を二本ないし三本残しながらざっと剪定します。成木の場合，ミカン類の剪定は上から下へ三角形になるように切り整えます。あらかじめ主枝は決まっていますのであ主枝，束枝を整え母枝を残すように剪定します。

晩柑類の場合は下から上へ逆三角形になるように切り整えます。晩柑類はミカン類に比べ樹勢が強いので強剪定を行います。

以上を愛媛県立果樹試験場で学びました。

後期の研修は人工授精と肉牛の肥育管理を，北海道にある農林水産省の十勝種畜牧場で学ぶ事になりました。

この牧場には色々課がありその中の経営技術課肉牛係で肉牛の肥育管理を学びました。

肉牛の肥育管理に関しては，目標である重量に短時間でしかも経費のかからない肥育の方法を技術として身につけたわけですが，これにはさまざまな条件が必要とされています。

まず増体量のいい牛の品種（ヘレフォード，アバーディン・アンガス），又これらの品種にあ

う環境，栄養素の高い牧草，そしてこの牧草を肥育期間中にあたえられるだけの量，これらの条件がそろって，はじめて理想的な低コスト肥育ができるというのを学びました。

もともと人工授精を身につけたかった私ですが，同じ牧場の和牛指導課という所で，学ぶことになりました。

人工授精を行うにはまず初めに，メス牛の発情を発見しなければなりません。メス牛の発情はいろいろな方法で行われるわけですが，私は実際に目で見て発見する方法で，人工授精の研修を行うことにしました。

メス牛の発情が外部にあらわれるのは，子宮の卵巣において卵胞の発育にとうたつした時です。

その時期にメス牛はおちつきがなく，別なメス牛に乗駕したり，外陰部が充血腫張し，粘液を流出したりするのですぐに目につくわけですが，必ずしもこの外観的な特徴が全部あらわれたりしないので，実際発情を目で発見するには，日ごろの牛群のかんさつ，発情のデーターなどが必要とされています。

発情周期はその牛によってさまざまですが，だいたい19～23日平均21日で生後６ヶ月おそいものでは18～20ヶ月で最初の発情があらわれます。

発情を持続する時間は６時間から46時間と牛の体の状態により，一日の時間帯の中でも朝の６時が発情のピークと数字的に結果がでております。そして，そのピークから４～10時間の間に人工授精が行われれば約80％の受胎率があるといわれています。

この理論をもとに人工授精の実習を行いました。

結果はどうであれ，この牧場での研修は自分でも満足のできる実習を行ったと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

前期の研修を行った愛媛県立果樹試験場では，計画以上に学ばせていただきました。

後期の研修を行った十勝種畜牧場では計画通りではありましたが，思ってもいなかった馬やめん羊などの飼育を実習したので，動物によってちがった飼育管理を行う事を知り，前，後期ともに満足のゆく研修内容だったと思います。

7. 合同研修会について

合同研修会は良いストレス解消になります。又それ以後の研修にもはげみがでてきますので，今後ともぜひ実施していただきたいと思います。

日数に関しては，なにも申し上げることができません。

8. 本邦での生活状況

日本へ来る前，母国で「日本はせまくて，沢山人がいてとても住めるような所では無い。」と聞いて来たわけですが，慣れたのでしょうか，それとも地方に派遣されたのでそのように感じなかったのでしょうか，いずれにしても私にとっては交通は便利で，観光地が沢山あり，しかもレクリェーションの場がもうけられているということで，住み良い国だと思います。ただ，物価が高いのには大変苦労しました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

ＪＩＣＡから今後来る研修生にたいして，日本の習慣，実際日本人がどのような生活をしているのかを教えてもらえればいいのではないかと思います。なぜならば，研修先あるいは親戚の人達との人間関係，仕事と色々な面での対応ができますし，研修生活もスムーズにいくのではないかと思うからです。

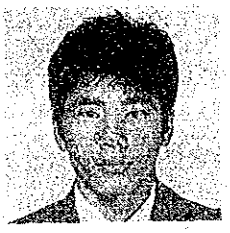
そして，日本へ来るのですから，正しい日本語の使いかたをしっかり勉強して来るようにすればいいと思います。

10. 所　　感

両親の母国で一年半勉強する事ができ，しかも，さらに自分の国のさまざまな状況がわかったので，この一年半の実技研修は大変プラスになりました。

研修先の人達にはとても親切に教えていただいたので，沢山の思い出が残ることと思います。だから，日本で行った実習を母国へ帰って十二分に活用し，研修で学んだ技術を，無駄にしないようがんばっていきたいと思います。

本多リカルドー匡



1. 研修機関　(1) 前期　長崎総合農林試験場
　　(2) 後期　〃
2. 研修期間　昭和63年4月～平成1年9月
3. 研修職種　土壌肥料

4. 当初の研修計画

農業高校を卒業し，二年間家で父のお伝いをしました。自分が実際農業をしてみるといろんな問題にぶつかりました，第一に農産物自由化が移住地の営農を不安定にした事，第二に地力低下の問題，生産コストの問題などです。

移住地では約25年間全地域で無肥料栽培を行い，現在でも約80パーセント同じような栽培をしています。農産物自由化になった今は低コスト生産をし，外国の産物よりも良い物を作らなければなりません。このような背景があり土壌肥料の勉強が必要だと感じ地力保全的土壌肥料研究が進んでいる日本で学びたいと思いました。

5. 研修概要

前期

一般分析の習得（窒素，燐酸，加里，石灰，苦土，塩基置換容量，燐酸吸収係数）

微量元素分析

各成分の植物体中，土壌中での働き，成育障害の発生状況

＊茶の黄化症（分析調査を行う）結果は加里過剰の苦土欠乏障害と推定した。

＊稲，大豆，トウモロコシの施肥技術，及び施肥量レベルでの成育状況調査

＊バレイショの施肥，そうか病の発生土壌条件の解明

後期

＊圃場土壌調査

＊ポット試験　施設野菜類における適正土壌環境の解明と土壌管理技術の確立

塩類集積土壌での根圏効果の第一報として上記の課題で試験結果をまとめました。

＊熱帯果樹関係の視察研修　沖縄の熱帯果樹試験場と海洋博記念公園にて

6. 当初の研修計画と実際の研修内容と比較して

全体的には満足できる研修でした。研修計画と比較してみると100 パーセント出来たとは言えません。ボリビアの土壌と日本の土壌と沢山ちがう点があり，出来なかった部分は帰国して現地で研究し解明して行こうと思います。

しかし，日本の研究は色んな面で進んでおり自分の研修テーマ以外の事も勉強出来今後母国で何をやるにしても自信はついたと思います。

7. 合同研修会について

半年に一回同輩を見られると言うのは研修先でのストレス解消には一番適していると思います。また，自分の研修先での問題などについて色々相談出来ることは残りの研修期間を無駄にしない役目を充分に果たしていると思います。

また，自分の研修と他人と比べることが出来，自分への反省とこれからの意気込みにもなると思います。

8. 本邦での生活状況

私は長崎県で研修全期間過ごしました。初めの頃は友達も出来ず，また近くに研修生もいなくいやな時もありました。段々日本の生活に慣れると一日一日が楽しくなってきました。今では友達が沢山出来問題無く研修を終える事が出来ました。

特に良かったのはスポーツを通して色んなひとと知り合い，一緒にプレイをし楽しく出来たことです。寮の生活は満足出来るように過ごせませんでした。寮と言うより舎監のいるアパートです。この様な点で不満を感じたのは自分と日本人の根本的感覚が違ったからでしょう。しかし，無事に研修を終わり，今は『ほんとうにたのしかったなぁ』とお世話になった人に感謝の気持ちでいっぱいです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本で良い研修成果を上げるには語学力が問題だと思います。日本語を順調に話せなかったら研修の意味が半分以上に減少すると思うので，これからの研修生の選抜を日本語の語学力においてほしいと思います。

＊日本での滞在期間中有意義に過ごすためには同じ外国人と接して，交流を深めることが大切だ

と思います。そのためにＪＩＣＡからその県にきている留学生なり研修生とコンタクトがとれるよう工夫してもらいたいと思います。

10. 所　　感

日本に来た時は何故こんなにせまい，息苦しい国に来たのだろう，実際ここで学んだことが母国でためになるのだろうかと心配しました。しかし，今になってみれば基礎的な物を学んだうえ沢山の人達を知ることが出来，これからさき自分にとってどれだけ心強いことでしょう。これからも日本で学んだことを最大限活用できるところで仕事をして自分のためだけじゃなく多くの人達にやくだつよう頑張るつもりです。

また，日本でお世話になった人達に恩返しが出来て，母国のために貢献できるよう頑張りたいと思います。

安　岡　　まゆみ

1. 研修機関　(1) 前期　ユニバーサル電子計算㈱
　　(2) 後期　同　上
2. 研修期間　昭和63年４月～平成元年９月
3. 研修職種　コンピュータ（ソフトウェア開発）

4. 当初の研修計画

ＪＩＣＡの研修生として来日したのは，コンピュータの技術，具体的にはＳＥ（システム・エンジニア）の勉強をする為でした。

システム分析，システム設計，システム管理，コンピュータ言語などを勉強するけいかくだった。主に言語とかは決めていなかったので，その時ドミニカでよく事務処理に使われていたコボル言語を希望してきた。

上記のようなものと共にコンピュータに関して基礎的な知識を身に付ける目的を持ってきた。

5. 研修概要

1988年４月１日にドミニカ共和国から，ＪＩＣＡの第18回移住者子弟技術研修生の一員として来日した。

３日から一週間は，まず17回生の先輩達と私達18回生の合同研修が行われた。17回生の紹介，要望，注意，決まりなどを聞くことができた。

合同研修が終わり，私達は一ヶ月間の日本語講習を受けた。来日したばかりの私達にとってはその一ヶ月間は，日本の国語，歴史，習慣などの勉強になった。それと，なによりも，みんなの近づきの口実ともなり，少しでも日本の風習に慣れることが出来た。

それからはユニバーサル電子計算㈱に研修生として入社した。

具体的な研修内容としては：

1. コンピュータ基礎，情報処理試験勉強
2. C言語，LANPLANシリーズ，CASLアセンブラ，BASICの基礎知識
3. COBOLプログラミング
4. システム設計
   - システム分析
   - ドキュメント等作成
5. プログラム設計
   - コーディング
   - コンパイル
   - デバック
   - テスト
   - マニュアル等作成
6. CAIシステム勉強
   - 情報処理技術者育成用コースウェア
   - SEシリーズ（システム管理，外部設計，内部設計）
7. 第2種情報処理技術者試験
8. OAショー見学，セミナー参加：

   1988
   - マイクロ・コンピュータ・ショー'88
   - 第66回東京ビジネス・ショー
   - 東芝ラップトップ展示
   - マイクロ・コンピュータ　システム&ツールフェアー'88

   1989
   - 第67回東京ビジネス・ショー
   - 東芝OA体感フェア'89
9. 事業所／工場見学
   - 野洲IBM事業所
   - 姫路工場・姫路半導体工場
   - NEC町田事業所
   - NEC玉川事業所

成果としては，研修先で使われてたジョブ管理システムをベースにして，作業工数管理システムを作成することができた。プログラムはCOBOL言語を使用して作成した。

工場・事業所見学やOAショー・セミナー参加などをすることによって，コンピュータに関す

る総合的な知識を身につけることが出来た。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

来日前の研修計画と実際の研修内容を比較すると，一応希望してきたものを勉強したけれど，なんとなく物足りないという感じがする。どうしてかと言うと，研修先では最初から，研修計画もなく，直接担当者もいなかったし，研修生として配属された部署では，ＣＯＢＯＬ言語を使っていなかったのも，とてもマイナスだったと思う。

7. 合同研修会について

合同研修会はとても大事だと思う。子弟研修生全員が集まることができ，アドバイス，要望事項，様々な経験とかを話し合うことが出来るし，相談又は注意し合うこともできるのでとてもいいと思う。みんなと会う期間なので，いつも楽しみにして待っていた。

これからも，合同研修会が続くようにと願っている。

8. 本邦での生活状況

来日前，両親の故郷へ来るのが一つの夢でした。来日してから何ヶ月後でも信じられなかったくらい嬉しかった。親戚や友達が多かったので，来た当時でも困ることもなく，一年半間楽しくスムーズに過ごすことだ出来た。

研修先では，友達がいっぱいでき，いつもよくされていた。月に一回は，友達とテニスをやったり，遊園地，旅行，いろいろな所へ遊びに行ったり，親類の家に行ったりしていたのである。

食べ物，着るもの，気候などには何も違和感はなかったけど，やはり習慣が違うのでなれないこともあった。

9. 今後の子弟研修制度に対する言及及び要望事項

日本語講習でしっかり勉強したらいいと思う。研修先へ行くときにとても為になる。それから，なるべく自分のやりたいこと，目的，目標を決めて，はっきりと研修先へ言うことが大事だと思う。

一年半間，できるだけ多く楽しんで友達をつくって，いろいろ勉強をすること。特に，国に帰っても勉強できないこととかがいいと思う。こちらの人達になじんで友達いっぱいできるようにと願っている。

10. 所　感

国では，大学でシステム・エンジニアリングの勉強をしたけれど，全然そういう実感がなくって研修に来た。今は，ＳＥというのはどういうことかが理解でき，総合的な知識を身につけることもでき，とても感謝している。

これからは，日本で習ったものを深め，国に帰って頑張りたいと思う。研修にきて，とてもよかったと思う。国際協力事業団の方々，研修先の人達，研修生みんなのおかげで，とてもいい研修期間を過ごすことが出来た。心から感謝している。

どうもありがとうございました。

恩智　ダニエル

1. 研修機関　(1) 前期　愛知県農業総合試験場養鶏研究所
　　鹿児島県養鶏試験場
　　(2) 後期　株式会社後藤孵卵場中央研究所
2. 研修期間　昭和63年4月～平成元年9月
3. 研修職種　養鶏（鶏の遺伝育種学）

4. 当初の研修計画

発展途上国であるペルーは，現在人口問題をもかかえているため，より効果的な家畜の飼育方法を，心がけなければなりませんです。まずしさやそれに関連した栄養不足などが目立つペルー国民の間では，もっとも手ごろで栄養不足を補う食物が鳥肉なのです。だから特に鶏の育成方法に力を入れなければならないのではないかと考えているのですが，ヒヨコに関しては，輸入に頼っているというのが，ペルーの現状なのです。それに輸出国と我が国との環境や地理的なちがいが，満足な育成のさまたげとなってしまっているのです。そのためにペルーのいろいろな地理的環境に適応できる鶏種の育成を考えなければならないと思い，だから見学と研修を通して学んで来たいと思いました。

5. 研修概要

① 現場研修：ブロイラー育成についての飼育管理および体重測定，飼料測定，ワクチネーション，解体処理，解剖等。選抜鶏の交配移動，給餌給水集卵，産卵記録。そして，入卵作業（種卵を孵卵機にセットしました），検卵（未受精卵，発育中止卵を除きました），ロジ下ろし（セッターからハッチャーへ種卵を移しました），ヒナ拾い（孵化したヒナをハッチャーから取り出しました），鑑別（♂，♀を区分しました），選別（ヒナの良し悪しを区分しました）。

② 理論研修：育種講義，鶏の遺伝育種学の基礎，遺伝相関の計算，選抜指数式係数の計算，鶏の病気，鶏の栄養，養鶏技術専門用語について勉強しました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

最初の研修先では，研修を始めて一ヶ月程度は，私が外国から来ているため，めずらしがられて色々考えて下さいました。でもその後は，言葉が理解できないということで，毎日同じような研修内容のため大変残念な思いをしました。私は言葉がわからなくてももっと色々なことについて勉強したかっだのですが，その機会がありませんでした。でも次の研修先と最後の研修先では，本当に良い勉強になりました。

7. 合同研修会について

合同研修会について，僕の意見としてこれは一番の楽しみでした。南米のそれぞれの国から来ている研修生達と言葉の交換等があり，こんな機会は初めての経験でした。

日本語講習，旅行，合同研修会があった時にも互いにみんなで一緒に楽しくやっていくことができました。決して忘れることが出来ません。

8. 本邦での生活状況

最初の一カ月間，横浜の移住センターでは楽しく皆と生活していましたが，研修先に行くと少し苦労をしました。

実生活上の日本語にはあまり不自由は感じていませんでした。でも，研修に必要な日本語について一生懸命勉強しました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前に出来るだけ日本語を読めるように，話せるように学んで来てほしいと思います。

研修内容ややりたいことをはっきりすることを，又研修先には勉強するプログラムを作ってほしいと思います。

10. 所　感

研修終了後の私の一つの目標は日本で得た知識，学んだことのすべてを，ペルーにおける養鶏遺伝学の研究の発展のためにそしてペルーの将来のために役立たせることである。特にペルーの環境に適応した種類の鶏を育成し，それを食料品として商品化することによってペルー国民の栄養不足の問題を少しでも解決することができれば幸いだと考えている。

愛知県養鶏研究所の皆様方，鹿児島県養鶏試験場の皆様方，株式会社後藤孵卵場中央研究所の皆様方，国際協力事業団の方，このすばらしい一年半を本当にどうもありがとうございました。

柴　田　光　恵

1. 研修機関　(1) 前期　中根庭園研究所
　　(2) 後期　〃
2. 研修期間　1988年4月～1989年9月
3. 研修職種　日本庭園

4. 当初の研修計画

日本庭園の歴史と作庭

5. 研修概要

最初の頃は毎日月～金曜日，朝の9時から夕方の5時まで土曜日は昼まで，研修先まで通っていました。

事務所では図面と色塗り，写真貼り，スケッチ，トレーシング，本読み，自習と外国の手紙を訳したりしました。これで日本の庭園のことが少し分かってきました。

あと，事務所へ行かない日はいろいろなお庭や公園の見学をしたり現場の作業もさせていただ

きました。

苔張り，水撒き，面積を計る事，掃除，幹巻，石選び，石磨き，測量のお手伝い，植物を植えたりしました。

あとは，竹垣の作り方，石燈籠の置き方，石組み，砂利敷き，砂紋引，剪定，緑つみなどを見学しました。

お庭の作り方を見せていただいてとても勉強になりました。お庭を見ながらスケッチをしたお蔭でいろんなことが身に付きました。お茶の基本作法を習う機会もあって最高だったと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は日本庭園の歴史，作庭などを習いたいと思っていましたけど，コロンビアを出る前から日本庭園研修はどんな感じなのか見当がつきませんでした。ただ1年半あれば十分日本庭園のことが分かると思っていましたが，しかし実際にやって見るとそう簡単ではありませんでした。

日本庭園は趣が深くて，現代の日本人にも分からない物ですが，いろんな見学，作業や自習をするたびにだんだんと慣れてきました。

新しいことを沢山学びましたが1年ちょっとで完全にこの芸術をわかることは出来ません。けれど，自然をそのまま表現して狭い所へ移すということが素晴らしいのだと思います。

京都の中根庭園研究所でこの1年と4カ月間とてもお世話になりました。ここで研修をさせていただいてとても良い勉強になりました。皆様はとても親切で私にいろいろ教えていただいてすごく感謝しています。

7. 合同研修会について

合同研修会ではいろんなアドバイスをしたり，聞くことができますのでとても良いと思います。

京都へ出ていく前に先輩達の経験やアドバイスを聞くことができて，とても役に立ちました。ですから去年9月の合同研修会で後輩達にアドバイスをすることができて少しでも役にたっているとおもいますのでとても嬉しいです。

良い経験，嫌な経験，悩み事，アドバイスをしたり聞いたり，いろんなお話が出来る機会があってとても良いと思います。

合同研修会は1つの勉強だけでなくて，皆のお話を聞いてもっと仲良くなれる機会だと思います。

私には合同研修会はとても大切だと思います。

8. 本邦での生活状況

日本で生活することでいろいろ心配していましたけれど，回りにとても親切な人達が沢山いて，わからないことを教えていただいたりいろいろ助けていただいたりして，友達も出来てこれで心強くなりました。人間関係で困ったことはありませんでした。

一番慣れるのが遅かったのは，バスと電車の乗り方でした。あとは季節の中で冬が一番心配でしたけれど，去年の冬は大分暖かかったので，ぜんぜん困りませんでした。

コロンビアと全く違う先進，安全の国，素晴らしい季節や芸術のある日本で1年半間過ごすことができ，生まれて初めて見たこと，経験したこと，学んだことが沢山あり，一生忘れられません。全期間の研修を無事終了できたことを，本当に感謝しております。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

後輩達に対するアドバイスとして，やっぱり人間関係を大事にすることです。なんでも喜んでして，できるだけ南米で学べない物を勉強したほうが良いと思います。

一人で生活する為にいろんな物を慌てて買わないで，周りの人に相談して，物を捜すこと，なるべく経済的に生活したほうが良いと思います。

冬はガス，電気ストーブ，コタツなどの使用に注意して下さい。

10. 所　　感

コロンビアへ帰ってからインテリアの勉強をして，日本庭園とインテリアが一緒になったデザインをしたいと思っています。

あとは日本語学校で子供やコロンビア人に日本語を教える可能性もあります。

森　山　　智恵美

1. 研修機関　(1) 前期　恩賜財団済生会横浜市南部病院
　　(2) 後期　　〃
2. 研修期間　昭和63年4月～平成元年9月
3. 研修職種　臨床検査技術

4. 当初の研修計画

日本で臨床検査に関する技術を身につけ，知識を広めることが目的でした。また，出来れば風習なども学びたいと思っていました。

5. 研修概要

① 海外移住センター

一番の目的の研修を始める前に約1月間の日本語講習を受けました。この間には，日本語だけでなくて日本の事情，歌，茶道，花道，書道なども習いました。

② 済生会横浜市南部病院

a) 基礎研修：S・63年5月～S・63年12月

◎細菌学

◎一般（尿化学）

◎生化学

◎病理学

◎血液学

◎血清・輸出

◎生理検査

ウルグァイでは一年間しか短期大学で勉強をしていませんでした。ですから，知識も経験もぜんぜんありませんでしたので最初は専門用語などを覚えるために検査部の各セクションで基礎研修を受けました。

b) 応用研修：H・元年1月～5月

基礎研修を終えまして応用研修として，各セクションで前よりもっと深く習い，実際に検査を行ったりして少しずつ理解できるようになりました。

c) 希望研修：H・元年6月～9月

希望研修と言いまして，あまり良く理解できなかったところ，またはもっと実習をやりたいところなどを選択して実行しました。

私に関しては顕微鏡検査が一番難しくて広い点だと思いますので，この期間には一般と血液検査のセクションで2ヶ月間ほど実習しました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容と比較して

自分が思っていたよりも良い研修ができましたと思います。最初はあまり日本語が分からなかったので不安に思っていましたが，少しずつ日本語を覚え，臨床検査の内容を理解し始めてだんだんと当初の研修計画の通りに進んでいきました。

7. 合同研修会について

たぶん研修生全員，それぞれの研修の次に一番大切にしていることだと思います。6ヶ月ぶりに皆にあって，二世，三世または日本人でも南米で暮らしている人達にしかわからないことがたくさんありますので，お互いに相談にのったり，助け合うことがとても大事だと思います。

8. 本邦での生活状況

研修期間中はずっと海外移住センターに住んでいましたので，あまりこまったことはありませんでした。いろんな国の人達と生活していましたおかげで様々な思い出がたくさんのこっています。

研修先では思っていたように，人との付き合いがとても難しかったので，その面では少しこまりましたが，それも社会勉強になりまして良かったと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

出来るだけ日本語の読み書きをできるまで勉強をすること，特に自分の目的の研修に関する専門用語など。そのうえ，長い期間なので，ホームシックやノイローゼにならないように来日する前には，これからどういう生活をするのかいろんな情報を聞いて，甘く考えないで良く検討して心の準備をしたほうが良いと思います。

日本で勉強する機会なんてあまりないので，なるべく自分のやりたいことをはっきり決めて，

頑張って実行する事。

10. 所　　感

帰国後，大学にもどって卒業してから出来るだけ日本で学んだ技術を人々のために生かしたいと思っています。国際協力事業団のおかげで一つの大きな夢を叶えることができましたので，無駄にならないように一生懸命頑張りたいと思っています。18月間大変お世話になりましてどうも有り難うございます。

研修総括報告書（２４カ月コース）

不破　ジュリア真理子

1.　研修機関　(1)　前期　金沢赤十字病院
（昭和63年５月～平成１年３月）
(2)　後期　国立療養所岐阜病院
（平成１年４月～平成２年３月）

2.　研修期間　昭和63年４月～平成２年３月

3.　研修職種　看護婦

4.　当初の研修計画

－老人の看護，治療体制と診療の補助を学ぶこと。

－日本の看護体制，教育，看護指導，組織などの全体を覚えること。

－ＣＣＵ，ＩＣＵにおける看護を学ぶこと。

5.　研修概要

前期：

1.　研修内容

内科看護

外科看護

整形外科看護

手術室（手術の見学）

産婦人科（お産の見学）

外来看護（内科，外科，整形，小児科，脳外科，内し鏡）

リハビリ室（老人のリハビリ）

2.　受けた院内講習

－家庭看護（家庭に病人が出来たら／病人を楽に寝かせる／病人の体をきれいに身仕度よく寝かせる／病人の食事と薬，手当ての仕方）

－妊娠と糖尿病

－エイズ予防

－じょくそうの処置について

－スウェデンの看護について

－老人家庭看護（老人に起こりやすい病気とその看護／寝たきり老人看護／老人看護の心づかい）

－糖尿病の運動療法の原理とその具体的方法

－糖尿病食品交換表の利用と指導

－腰痛について

－痔について

－てんかんとアレルギー

－高血圧教室

－肝臓病教室

－糖尿病教室

－母親教室

－研究発表（術前はい便コントロールの再検討／経管栄養療法の安楽について考える／子宮癌検診について意識調査／はい尿自立に向けての援助）

3. 参加した学会

－19回日本看護学会

成人看護

特別講演：看護が真に担うべきものは何か

－石川県看護センター

在宅ケアーにおける看護のありかた

看護職の役割

4. 院外研修

老人施設への訪問

－特別養護老人ホーム福じゅう園

－県立基幹特別養護老人ホーム石川県八田ホーム

見学

－北里大学病院

後期：

1. 研修内容

－呼吸器内科看護

気管支喘息患者の看護

肺癌患者治療とターミナルケアーの看護

肺結核患者の治療と看護

－循環器看護

心疾患のある患者の看護

心臓カテーテル法，ＰＴＣＡの看護

心臓外科看護

ＣＣＵ／ＩＣＵ看護

2. 受けた院内講習

－肺癌について

－ブラジルの看護について講義をしました
－急性心筋きょ血にたいする治療法
－心電図からみた心臓病の治療
－呼吸急生気について
－看護の実務研修について
－看護計画について
－ＲＩについて（当院で行われているアイソトープ検査）
－研究発表
気管し鏡の非定型こう酸菌汚染とその対策について
はい便困難を訴える患者の試み
ＩＶＨの管理について
老患者における清潔行為の実態意識調査
清潔に関するアンケート調査とその改善
心カテーテル後の看護を見直し－経過表を作成して
気管し喘息と音楽療法
気管し喘息患者時間外受信の実態
気管し喘息患者と結核の精神的自覚症状の比較－ＣＭＩを活用して
リハビリについて

3. 院外研修
－名古屋国立病院（ＩＣＵ－救命救急センターとＣＣＵ）
見学
－岐阜中央保健所

金沢赤十字病院は，300床のうち，200床は老人病棟で残り100床は一般病棟になっている。

初めに病院全体についてオリエンテーション，日本の看護体制，看護教育について話を聞きました。私は全病棟と外来で研修を受けましたが，目的としていた老人病棟に１ヶ月～２ヶ月ほどいました。

各病棟では，看護婦と一緒に指導を受け，看護業務にそって基本的な日本の看護を学び，わからないことはそのつど聞いて，色々と体験することができました。病棟で行われているコンフェレンスでは，意見も出し合いながら参加し，院内講習も受け，新しく進んでいる医学的に必要な知識を覚えることもでき，よい勉強になりました。それを実際に病棟で生かすこともできました。

老人病棟の特徴は，低いＡＤＬに寝たきり老人が多く，生活援助を中心とした看護と精神的な看護が必要でした。このような患者さんは，病気を治すだけでなく，リハビリとか作業訓練をして，日常生活に必要な動作を生かしてＡＤＬを低下しない看護指導も行いました。次に退院に向けての指導は，家族の協力がとても大切ですが，この面では数多くの問題も見られます。訪問看

護の際は，退院後の不安な面やわからないことを説明して，看護診察をすることもできました。

退院して家へ帰る人と中には施設へ入れられる老人もいましたので，施設でも研修を行いました。その施設は自分の家に一番近い感じで生活を送る所ですが，１人の老人から聞いた言葉が心に残り，社会的には，大きい問題点と感じました。その言葉は『俺は子供もいるが，だれも来てくれない。ここで皆と一緒に楽しくできるが，家族が来てくれないのが一番寂しい』と涙ぐんで寂しげな姿で話した老人の言葉です。

日本では急速に高齢化社会になり，それとともに老人の看護は，大きな問題になっている。病院においても寝たきり老人やちほう老人の患者が多く，私達看護婦は，この老人達の看護の難しさをつくづくと感じました。この問題については，年をとっても社会への参加を忘れず，まだ現役であるという心構えを失わず，また，寝たきり老人においても個人個人がなんらかの生きがいを持つことが，大切であると感じました。

その他に，日本でも，最も医学研究に進んでいる北里大学病院の見学をし，自分の専門とする科には，やはりとても深い感心を持ちました。

後期では，呼吸器（喘息，肺癌，肺結核）と循環器（心カテーテル，ＰＴＣＡ）内科，外科看護を中心として研修を行いました。患者を受け持ち，入院から退院までの看護を行いました。

喘息病棟では，もう一つの治療方法として活用されているのは音楽療法で，発作時だけでなく，このみの音楽を聞いて治す方法を新しく経験することができました。結果的にはやはり，一人一人の個人さにもより，良くなった人，中には変わり無しということも見られました。でもやはり，原因を検査結果と家庭状態から調べるのが最も必要でした。受け持ち患者の場合は，色々と聞くと，季節とカーペットによる喘息だということがわかり，カーペットをはずし，又はそうじきを使用してそうじをするとかということも指導が必要，入院時だけの事を考えるだけでなく退院後の看護指導を活用しました。

病院で最も行われている心臓に対する検査（心カテーテル，ＰＴＣＡ）の看護も経験することができ，想像していた日本の進んでいる医学技術と医療器械が実際にどのように使用されているかということも明らかにわかりました。

外科看護は肺癌と心臓の手術を受けた患者に行い，日がたつにつれて良くなってゆき退院へと歩む姿を，私（たち）看護婦としては，とても快い気持ちで見ていました。

ターミナルケアーの患者には，心の看護を生かすことがおもにできました。

その他，名古屋国立病院で一週間ＣＣＵとＩＣＵ救命救急センターで研修を受けさせてもらいました。やはり各病院だけでも違いは色々な面であり，その違いを学びながら知識を広くする事もでき，とても良い勉強になりました。

また，岐阜中央保健所へも見学に行き，保健所でのありかたも知ることができました。

この２年間をとおして学ぶことも多く研修の成果は計画より以上に得られたことと思っております。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の計画すべてを2年間で研修出来るか不安であったけれども，実際2年間の研修を終えてみると計画はもちろん，それ以上に多方面にわたり体験し学べたことに満足しています。詳しくは，(5)で述べたとおりです。

7. 合同研修会について

6ヶ月おきに行われている合同研修会は，全員が集まって研修の成果を発表し，それをもとに批評したり反省もし，また問題点をも挙げて研修生にとってはとても大切な行事で，なくてはならない会であると思います。

先輩達からのアドバイスを聞くことも出来るし，ただ聞くだけでなくそれぞれの意見などを参考にして次の研修期間のために方法を見直すことも出来る良い機会だと思います。

新しいことなどただ語るだけでなく実際にこの研修会で生かされることを望みます。

また人間の集まりとは，素晴らしいものと思います。全員で話し合い，時には，励ましあいながら交流を深め友情をより一層深める研修会は，時間の短さを感じます。研修会を通して人間として大切な宝物である友達を多く持つことができて貴重な研修会でした。

8. 本邦での生活状況

この2年間，アパート生活で過ごしました。最低必要とされる家具，家庭用器具は，親戚とか，友達に貸して頂いたので助かりました。けれども，アパートの保証金等に必要とされる費用が高いため，経済的に初めは，大変でした。

初めて日本へ来たわたしにとっては，日本の文化や，日本人の日常生活を体験することができてとても良かったと思います。

又，研修先（金沢赤十字病院，岐阜病院）及び，スーパーも近くにあり，色々な面で豊富でなんでもあり，自動化されてなに不自由なく，2年間を過ごすことができました。

気候は，四季があり，春には美しい桜の花が咲き，夏は山登りや又，蒸し暑くて眠れない夜があったり，秋には，紅葉がとても美しく，冬は白い雪には感動しました。それぞれの季節の移り変わりの自然な美しさを2回もこの目で確かめることができたことに，喜びを感じました。また，暑い国から来たわたしにはとっては，冬の寒さは身にしみて厳しさを感じました。

2年間のうち，両親の故郷で親戚に会うこともでき，又，様々な友達も多く知り合い，国際交流クラブでもよく集まり，色々な国の人達ができて，楽しい生活を送ることができました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

－日本語をある程度理解する必要（読み書き）そして，自分の研修希望に関する専門用語も前もって勉強しておくと良い。

－研修目的をはっきりさせ，研修計画を具体的にたてると良い。

－自分の研修目的に関する経験を多く積み，色々な所へ見学もすると勉強になります。

－実際に技術を上達させるためには，見ること，体験すること，そしてわからないことを聞くの

が大切です。

－先輩達と交流をはかりながら情報を得るのも良いと思います。

－日本人の考え方，生活社会状況を理解し，余り，南米的な考え方で批評しない方が良いと思います。

－健康には充分気をつけてほしい。

－友達も多く作り，楽しい日を過ごすこと。

10. 所　感

研修生活も終り，この2年間を振り返ると色々と思い出があり，暖かく励ましたり，支えたりして下さった友人，そして色々な人にも巡り会うことができて素晴らしい体験をすることができました。

これからも人間の出会いとふれ会いを大切にして，謙虚さと前向きの姿，また，情熱を失わないよう心掛けるとともに自分がなしている看護を見つめ直す正確な眼を持ち続けるよう努力して自分を磨き，日本で学んだ技術を世間のために生かし，広い道へと前進したいと思います。

国際協力事業団の方々を初め，金沢赤十字病院，岐阜病院の皆様方には，長期間にわたり色々と快くご指導とご協力いただきまして心より厚くお礼を申し上げます。

北　川　定　子

1. 研修機関　(1) 前期　1988年4月～1989年3月
茨城県美野里病院
(2) 後期　1989年4月～1990年3月
神奈川県東海大学医学部付属病院

2. 研修期間　1988年4月～1990年3月

3. 研修職種　看護婦

4. 当初の研修計画

研修目的：パラグアイ診療所の看護婦として診療介助及び患者，家族へ保健，生活指導ができる。

目　的：看護婦としての基本的知識を習得する
知識を基盤とした看護技術を習得する
看護婦としての使命，責任についての認識を深める
日本で習得できたことを継続させるための学習計画立案実施，評価方法を習得する

5. 研修概要

前期研修：茨城県美野里病院にて消化器外科を主にした混合病棟，老人病棟で研修をし，技術習得後，外来，検査，入院，手術など，様々な経験をすることができました。

後期研修：神奈川県伊勢原市東海大学医学部付属病院

研修期間	研修病棟	研　修　内　容
4月	消化器病棟	主に肝臓疾患の治療，感染予防について学習し，看護の実際を経験する。
5月	呼吸器病棟	呼吸器疾患の看護の実際，退院後の生活指導などを経験する。
6月	循環器病棟	急性心疾患の対応のしかた，心電計の操作，及び記録，退院指導，日常生活動作拡大への援助，指導を学ぶ。
7月	腎，糖尿病病棟	腹膜透析，インシュリン療法，食事，運動療法，糖尿病患者の生活指導を学ぶ。
8月	婦人科病棟	女性ばかりの病棟の特徴と婦人科疾患の看護を経験する。
9月	神経内科病棟	脳出血，脳神経障害の急性期から慢性期の看護，社会復帰のためのリハビリテーションの実際を経験する。
10月	産科病棟	妊婦検診，保健指導，分娩，褥室，新生児の看護の実際を経験する。
11月	小児科病棟	小児科病棟の特徴，乳児から学童の成長発達及び看護の実際を経験する。
12月	手術室	機械の準備から消毒の方法，周手術期の看護を経験する。
1月～2月	救命救急センター	救急患者の受け入れの準備から救急看護の実際を経験する。
3月	栄養課	病院における給食の基本，管理，適温給食について学習，見学する。
	病院見学	福岡県エンゼル病院 福岡県小倉記念病院
	総括	1年間の研修の振り返り及びまとめを行う。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

前期研修：個人病院の実態，及び看護婦の役割が分かりました。

後期研修：希望どおりの研修ができ満足しております。各病棟1か月ずつの短い期間だったのでまだまだ勉強不足だと思いますが，今まで経験できたことを生かしながら頑張っていきたいと思います。

7. 合同研修会について

初めに色々とお世話になっている国際協力事業団のみな様にお礼の言葉を言いたいと思います。2年間の長い間ほんとうにお世話になりました。

私達は，日本に来てみんなそれぞれと研修先が違い，初めての日本での生活で，ときめき，緊

張感，そして不安もありました。合同研修会を楽しみにして頑張ってこれたこともあったと思います。まるで兄弟に会うような気持ちでした。精神的にすごくよいことで，その上，それぞれの研修，生活について話し合ったり，自分の研修を振り返ってみる良い機会でもありこれからも是非，続けていって欲しいと思います。

8. 本邦での生活状況

日本の方々より「全く日本人と変わらないね」と良く言われました。その時「だって日本人です」からと答える私でした。そして日本人であることを誇りに思ってます。

勇気をだして一人で電車に乗ったりもしました。そんなとき何もわからない駅などで，行き先を尋ねるとそんなこともわからないのという顔をされたこともありました。それも良い経験になりました。そのうち慣れ，休みを利用して，楽しい旅行も出来るようにもなりました。友達をつくるためには，自分から話しかけていくのが一番かも知れません。日本は物は豊富だし，設備もちゃんと整っているので寒さもそれ程感じませんでした。しかし屋外研修をうける人達は寒い思いをしたのではないかと思います。

屋外研修を受ける研修生は冬物の衣類を沢山準備したほうがよいと感じました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

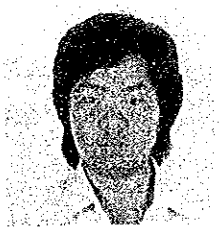
合同研修会を続けて欲しいことと出来るだけ皆と会うチャンスをつくって欲しいと思います。

10. 所　感

日本に来れたことが私にとって今までの人生の中，一番良い経験だったと思います。看護婦としての勉強はもちろんのこと，人生，社会の勉強が出来たのではないかとおもいます。出来るだけ多くの人達が経験して欲しいと思います。

パラグアイに帰国後は，日本で学べたことを生かしながら診療所で頑張りたいと思います。そしてパラグアイの医療をよく理解した上で，勉強を続け，又チャンスをつかみ日本に留学したいと思います。

槇　　みつる



1. 研修機関　(1) 前期　恩賜財団済生会横浜市南部病院
　　(2) 後期　神奈川県立こども医療センター
　　汐田総合病院
　　川崎共同病院
2. 研修期間　1988年4月～1990年3月
3. 研修職種　看護（臨床）

4. 当初の研修計画

小児看護：小児看護の基本

新生児，未熟児の看護

疾患の全体把握

5. 研修概要

前期：済生会横浜市南部病院で研修しました。小児科の看護を希望していたんですけど，実際に研修先へ行って話し合った結果小児科だけでなく，日本の進歩した医療を全体的に把握できたら，と思い一カ月交替でいろいろな科を回りました。

外科，透析，内科，小児科，産婦人科，脳神経外科，整形外科，循環器，ＩＣＵ，中央手術部，

外来：泌尿器科，耳鼻科，眼科

放射線科：ＣＴスキャン，胃カメラ，胃通し

整形外科的検査：デイスコ，ミエログラフィ

成果：このようにいろいろな所を回ったため，新しい事の発見はたくさんありました。けれども，深くは追求できず，広く浅くといった研修でした。

病棟では，看護婦さんたちの疾病に応じての観察ポイントや患者さんとの対応の仕方を見ていてとても勉強になりました。

後期：当初からの希望であった小児科を専門的にこども医療センターで研修しました。初めの３カ月はこの病院でどのような疾患の患児が見られるかを知るために感染，観察病棟で研修しました。

成果：喘息，下痢，肺炎の患児が多くそのことについて深く追求していき，それらには，どのような処置が行われているのか，また観察のポイントも指導していただきました。

また，この病棟は観察病棟なので入退院が激しく，長期となる患児はすぐ別な病棟に移されるのです。そのおかげでいろいろな疾患を見ることができました。

次の３カ月間は，一人の患児を継続してみたいということで，学童内科病棟で研修しました。そこは，小児癌や再生不良性貧血の患児が多く長期入院となるため病室で授業を受けていました。ここでは一人の患児を受け持ちその患児の全体把握をするために事例をまとめてみました。今までそういう経験がなかったため婦長さんや看護婦さんたちの指導のもとで完成しました。

成果：その症例をまとめたことによって，文章のまとめ方はもちろん患児の全体を把握することができました。

学童内科病棟での研修終了後は，幼児病棟で研修しました。幼児病棟では，一人の患児だけを受け持つとどうしても視野が狭くなるため，ここではいろいろな患児を受け持たせていただきました。最初は看護婦さんと一緒に行動してました。そして少しなれてくると２，３人ぐらい一人で任されました。

成果：看護婦としての義務と責任の重大さを感じさせられ，間違えたら大変だという気持ちが

働いて，わからないことは，必ず聞いて確かめた後に行うようにしていのたですごく勉強になりました。

残りの３カ月間は，地域的な医療も見ておきたいと希望した結果汐田総合病院で研修することになり，はじめの１カ月は，神経内科病棟のほとんど寝たきり老人の看護の研修をしました。その後訪問看護の方で研修しました。保健婦さんや看護婦さんと一緒にいろいろな患者さんのところを訪問しました。

成果：神経内科での経験がなかった上に期間も短かったんですけど，先生や看護婦さんたちの指導により少しは神経内科のことがわかってきました。また病棟で研修した後訪問看護の方へ行ったので，順番として病棟から退院していった患者さんがどのように退院後すごしているのかを見ることができました。また病棟では見られなかった家族背景をみることができました。（日本の家族というもの。）

最後のしめくくりとして川崎共同病院の方で地域的な小児看護の研修をしました。特に変わった，新しい事の発見はなかったんですけど，この２年間研修してきたことの復習ができたような気がしました。またまわりの看護婦さんや先生たちがとても親切だったので，たった２カ月の研修だったんですけど，人間関係という面でとても良い研修ができたと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

小児看護の方では，希望していた未熟児，新生児の研修ができなかったのが少し残念なんですけど，計画には入っていなかった老人病看護の研修はとてもよかったです。というのは，これからのパラグアイには地域的な医療が必要だと思ったからです。

病気にかかってから病院にくるまでの時間が長いので地域に出て，少し知識を与えるために指導が必要なのです。

7. 合同研修会について

合同研修会は，日本全国にバラバラにちらばっている仲間が集まり研修先では言えないことや，もしつらいことがあればそれを打ち明ける場であり，また，この時だけは，日本のことも，研修のことも忘れて（発表の時以外）皆でボウリングに行ったりピクニックに行ったりして，一種のストレス解消をする場でもあると思います。そして，また半年がんばるぞという気になれるエネルギー源だと思います。

8. 本邦での生活状況

私は，この２年間ずっとセンターで暮らしていました。絶えず人の出入りがあるのでいろいろな人と知り合い友達になれました。そのせいか寂しいなんていっている暇もありませんでした。でもいろいろな人と知り合いになれるのと同時に別れもたくさんあります，それが一番つらいのです。

ここに来て初めてこういう大きな団体の生活を経験しました。確かに団体生活は，とても楽しい事もあるけれど，とても難しいとも思います。ある程度自分を押さえることが必要だし，相手

を理解する力も要求されます。こうした生活の中で皆少しずつ大人になっていくのではないかと思います。

9. 今後の子弟の研修制度に対する提言及び要望事項

日本に研修生としてくるからには，日本事情はもちろんですけど，それ以上に自分の国の事情もよく知っておく必要があると思います。よく知っているようで聞かれて初めて答えに困ることが何度かありました。

10. 所　感

長いようで短かったこの2年間，日本の進歩した医療を学んで来ました。横の線で比較すれば決して十分とは言えないけれど，縦の線，つまり2年前の自分と今の自分を比較して何かは得られたんではないかと思います。

さて，それをどこまでいかせるかわからないけれど，私なりに，これからも勉強しながらがんばっていきたいと思っています。

最後になりましたが，この研修制度を提供して下さった国際協力事業団の方々，南部病院，こども医療センター，汐田総合病院，川崎共同病院の看護婦さんや先生方にいろいろな指導をしてくださったことを心からお礼を申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

謝　花　　喜美子

1. 研修機関　(1) 前期　1. 神奈川県衛生看護専門学校
　　2. 神奈川県衛生看護専門学校付属病院
　　(2) 後期　1. 神奈川県衛生看護専門学校
　　2. 臨床実習－神奈川県衛生看護専門学校付属病院，済生会神奈川県病院，済生会若草病院，大口東総合病院

2. 研修期間　昭和63年4月～平成2年3月

3. 研修職種　看護婦

4. 当初の研修計画

看護助手として仕事をしていた私は，看護に関しての知識がほとんどありませんでした。仕事を続けているうちに，看護とは，人の命をあずかる，大変責任の大きい仕事であることを少しずつ感じてくるようになりました。そして両親の生まれ育った国でもあり，いろんな面で進歩している日本で看護の勉強をし，資格をとりたかった。

計画は看護者としての知識，技術，精神を身につける。前から外科系に興味があったため，手術室看護を学びたかった。

5. 研修概要

○基礎科目		家政　国語，生物，英語，体育，音楽
○専門基礎科目		解剖生理，病原微生物，薬理，栄養と食事療法，臨床検査，公衆衛生，社会福祉，衛生法規，個人衛生
看護学	○看護の原理	看護概論，看護史，看護倫理，看護技術
	○成人の看護	成人保健，内科疾患と看護，精神科疾患と看護，外科疾患と看護，整形外科疾患と看護，皮膚科疾患と看護，泌尿器科疾患と看護，眼科疾患と看護，耳鼻咽喉科疾患と看護，歯科疾患と看護，婦人科疾患と看護
	○母性，小児看護	母性保健，母性疾患と看護，小児疾患と看護
	○放射線科，理学療法	

＜前期＞

昭和63年４月入学。

４月～７月，学校での授業を受ける。

８月～平成元年３月まで午前中病院研修，午後は学校での授業を続ける。

具体的な病院での研修内容

○昭和63年８月　内科病棟

食事の援助（視力のない患者，上肢の機能障害のある患者，頑固な食欲不振，衰弱患），排泄の援助（臥床者の便器のあて方，尿失禁者の世話），清潔の援助（入浴，シャワー浴，臥床者の熱布清拭，洗髪，陰部洗浄，口腔ケア），衣生活の援助，臥位時の体位変換，歩行の援助，車椅子移乗，温，冷罨法の実施，褥創の予防とケア，身体の計測，観察，記録の方法を学ぶ，人工透析（ＣＥＰＤ交換の見学）

○９月～11月　外科，整形外科，混合病棟

手術前の看護オリエンテーション（入院生活に必要な病院内の施設，設備と使用法，患者の日課など），観察と看護記録（患者の社会的背景，日常の生活習慣などについて），手術の準備（手術承諾書の確認，全身の清潔，呼吸運動，喀たん喀出，床上排泄の練習），手術前日の看護（検査結果の確認，手術部位の剃毛），手術後の看護（病室の準備，病室への患者移送など），ギプス固定患者の看護，牽引患者の看護の見学及び実施。

○12月～平成２年２月　産科，新生児室，婦人科病棟

産婦入院時の看護（入院時確かめる事項，入院時診察の介助），分娩の準備（看護婦の準備，産婦の準備。石けん浣腸，外陰部の剃毛，全身の清潔），分娩第１期の看護（就床時期と体位，一般状態の観察，分娩経過の観察。陣痛，胎児心音，分泌物の観察，分娩室に移す時期）、分娩第２期，３期の看護，分娩直後およびその後の母体の看護，胎児付属物の計測と検査，分娩記録の方法，母子健康手帳の使用法，褥婦の看護（復古現象の助成，感染予防，乳汁分泌の促進，母子相互作用の援助，産後，退院時の保健指導の見学，異常妊娠時の産婦の看護（妊娠悪

阻，妊娠中毒症，前置胎盤，流産），ノンストレステストの取り扱い方，図の見方，子宮癌治療中患者の看護。

○平成元年３月　中央材料室および手術室，検査室

滅菌用品の取り扱い方法（保管場所，取り扱い上の注意，有効期限について），隔離区域への出入りに着用するガウンの着脱法，高圧蒸気滅菌，ガス消毒法（主な対象物），手洗い，手術室の看護（間接介助，直接介助は見学のみ），臨床検査介助における一般的な注意（検査前，検体の保存），尿の検査，大便の検査，顕微鏡の使用法，生理検査（心電図検査，見学及び実施，脳波，筋電図，肺機能，超音波検査見学）

＜後期＞

○平成元年５月～11月

月，火，水曜日は，神奈川県衛生看護専門学校付属病院，済生会神奈川県病院，済生会若草病院，大口東総合病院の４つの病院で実習する。

○元年８月

学校の夏休みの期間を利用し，一週間神奈川県立母子保健センターへ研修に行き，主に分娩について研修する。

○平成２年３月４日　資格試験

〃　　３月９日　卒業式

成果

最初，病院研修に行った時は緊張して患者さんとコミュニケーションを取るゆとりさえありませんでした。でも研修へ行ったおかげで，前と比べてもっと学校での授業も理解できるようになった。また，臨床実習でも応用できる場面が多くあり，少しは自信をもって実習することもできました。

6.　当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

計画どおり学校のほうはスムーズにいき，資格も取ることができました。

病院研修のほうは，最初は手術室看護を学びたかったが，帰国後，仕事をする病院では産婦人科の患者さんが多いため，産婦人科を主に研修しました。

7.　合同研修会について

合同研修会には学校の都合で参加することはできなかったが，ぜひ毎年あってほしいと思います。

半年ぶりに皆と会い，いろんな情報の交換，収集することにより，研修，生活状況を知る大きな機会だと思います。自分の国とはまったく違う環境の中で生活していくのは，いろんな悩み，問題点があり，こうして皆と話し合うだけでもストレスの解消になるのではないかと思います。

8.　本邦での生活状況

２年間海外移住センターのほうで生活しました。生活面では，一切不自由することはありませ

んでした。センターではいろんなお国の人との交流があり，またいろんな情報を交換することもできてとてもよかったです。

学校生活もいいお友達が沢山でき，色々と協力してくれたので困ったことはありませんでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私の場合はセンターで生活をし，担当者とも毎日コンタクトをとることができたが，地方で研修を受けている方達は担当者とあまりコンタクトをとれないと口にしているのを耳にした時は辛い思いをしているんだなと思い，これからはそういうような事がないようにしていってほしいと思います。

10. 所　感

最初のころは教科書もほとんど読めず，2～3ページ読むのに数時間もかかりました。こんな調子でやっていけるのだろうかととても心配でしたが，資格試験も無事合格することができました。これからは有資格者として仕事をするのだが，看護していくためにはまだまだ未熟なので，これからは臨床の場を通して学んでいきたいと思います。

国際協力事業団を初め，学校の先生方，臨床指導者の方々，そしてセンターの皆様に深く感謝いたします。

第１８回子弟技術研修生住所録

AKEMI KURODA
黒田　明美

R. Itapiru 86 Apto.43
SAUDE(Pca da Arvore)
São Paulo
São Paulo
BRASIL

TAKURO TAKESHITA
竹下　拓朗

PA 140 Km.20
Santo Antonio do Taua
Pará
BRASIL

KOJIRO ABEKI
椿木　幸次郎

Rua Custodio de Melo 111
Bairro Liberdade
Belo Horizonte
Minas Gerais
BRASIL

MICHIYO IKETANI
池谷　美智代

Av. Costa Junior 111
Catmo do Paranaíba
Minas Gerais
BRASIL

RIKA KISHI
岸　リカ

R. Jose Getuilo 130
Apto. 801
Bairro Aclimacao
São Paulo
BRASIL

REDI HIROKO KONDO 近 藤 伯 子 レージ	Caixa Postal 1337 Ribeirão Prêto São Paulo BRASIL
FUMIKO TAKAHASHI 高 橋 文 子	Largo da Polvora 141 Apto. 21, Liberdade São Paulo BRASIL
MARCOS NARUHIRO TSURUGA 鶴 我 マルコス 徳 裕	Caixa Postal 227 Mogi das Cruzes São Paulo BRASIL
TOMIHIRO HAMANO 濱 野 富 浩	Caixa Postal 216 São Joaquim Santa Catarina BRASIL
JULIA MARIKO FUWA 不 破 ジュリア 眞理子	Moacir de Brito Freitas 77 Vila Industrial Mogi das Cruzes São Paulo BRASIL

IVONE MAYUMI URAZOE 浦 添 真優美 イボーネ	Caixa Postal 41 Carlo Polis Paraná BRASIL
RICARDI MINORU ENDO 遠 藤 実 リカルディ	Caixa Postal 123 Carlo Polis Paraná BRASIL
LOURIVAL CHUJI KOZAKI 小 崎 周 二 ローリバル	Caixa Postal 60 Pilar do Sul São Paulo BRASIL
ALBERTO TAKUMI SEGUCHI 瀬 口 巧 アルベルト	Caixa Postal 302 Bairro Pindorama Mogi das Cruzes São Paulo BRASIL
ROBERTO SEICHO MIYAMOTO 宮 本 正 勝 ロベルト	R. Ipiranga 15 Centro Mogi das Cruzes São Paulo BRASIL

SADAKO KITAGAWA 北川　定子	Casilla de Correo No.4 Encarnación PARAGUAY
MARIO YASUHIRO SATO 佐藤 マリオ 康宏	Casilla de Correo No.64 Encarnación PARAGUAY
KAORU SHIMA 島　郁	Casilla de Correo No.64 Encarnación PARAGUAY
BERNARDA YUKIKO HORIKAWA 堀川 由紀子 ベルナルダ	Caixa Postal 606 Foz do Iguazu Paraná BRASIL
MITSURU MAKI 槇　みつる	Caixa Postal 128 Ponta Pora Mato Grosso do Sul BRASIL
MARGARITA YAEKO MATSUMIYA 松宮 八重子 マルガリータ	Juan León Mallorquin 354 Encarnación PARAGUAY

SILVIA MASAYA INOUE 井上 シルビア 雅代	Defensa 2943 (1663) San Miguel Buenos Aires ARGENTINA
YORIKO MIYAWAKI 宮脇 依子	Ruta Provincial 36, Km 44,500 (1893) La Plata Buenos Aires ARGENTINA
KIMIKO JAHANA 謝花 喜美子	Casilla No. 582 Santa Cruz BOLIVIA
HARUNO SHINGAKI 新垣 春乃	Colonia Okinawa No.1 Casilla No. 582 Santa Cruz BOLIVIA
YOICHIRO HAYASHI 林 暢一朗	Casilla No. 464 Santa Cruz BOLIVIA

RICARDO KAZUMASA HONDA 本多 リカルド 一匡	Casilla No. 464 Santa Cruz BOLIVIA
ELISA MAYUMI YASUOKA 安岡 まゆみ エリサ	P.O.Box 22210 Santo Domingo REPUBLICA DOMINICANA
DANIEL ONCHI 恩智 ダニエル	Av. Jorge Chaves 1456 Surco Lima 33 PERU
MITSUE SHIBATA 柴田 光恵	Ave. 3ra. 8n. 37 Cali COLOMBIA
GLORIA FUSAE IKEDA 池田 芙嵯恵 グロリア	Cno. del Jefe 2944 Montevideo URUGUAY
CHIEMI MORIYAMA 森山 智恵美	Peabody 2002 Lezica Montevideo URUGUAY